

令和6年度 不登校児童生徒体験活動推進事業

はつらつ体験塾

事業実施報告書



新潟県教育委員会

目 次

I まとめ及び成果

- ◇ 令和6年度「はつらつ体験塾」実施状況一覧
- ◇ 参加児童生徒の内訳
- ◇ はつらつ体験塾参加後の児童生徒の様子1（参加児童生徒アンケートより）
- ◇ はつらつ体験塾参加後の児童生徒の様子2（保護者アンケートより）
- ◇ 参加児童生徒事後調査結果
- ◇ 過去10年の参加・復帰状況等の推移（平成27年度～令和6年度）
- ◇ 各回の実施状況報告書

II 推進委員会

- ◇ 推進委員会設置要綱
- ◇ 推進委員会名簿
- ◇ 推進委員会議事概要

III 推進計画

IV 実施計画、はつらつ通信

- ◇ 第1回はつらつ体験塾、はつらつ通信
- ◇ 第2回はつらつ体験塾、はつらつ通信
- ◇ 第3回はつらつ体験塾、はつらつ通信

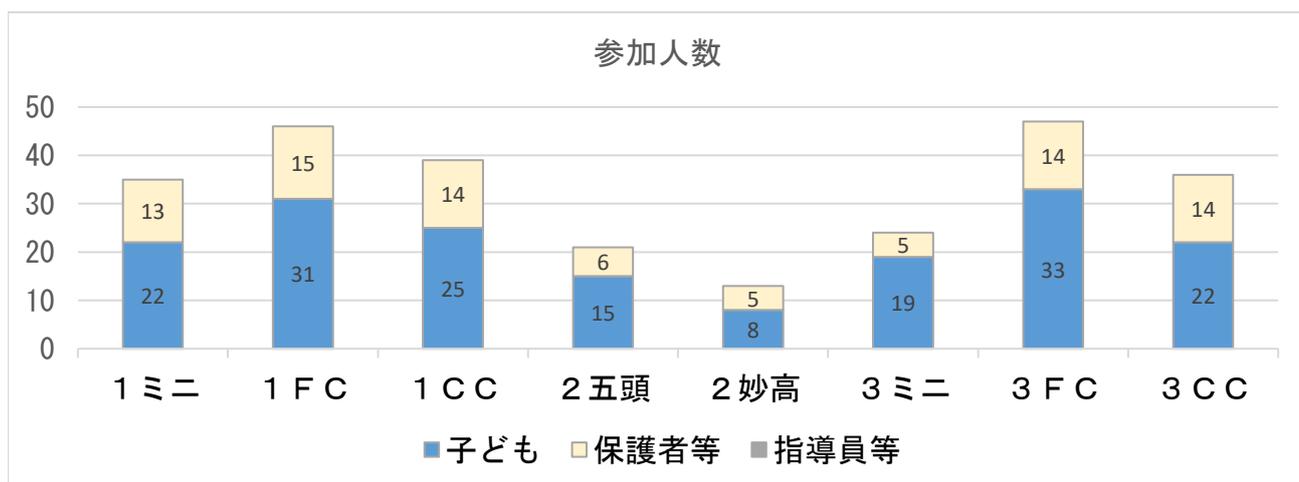
I まとめ及び成果

令和6年度「はつらつ体験塾」実施状況一覧

◇参加児童生徒実数 51人 (R5年度: 66人)
 ◇参加保護者等実数 27人 (R4年度: 40人)
 ※FC: フレンドリーキャンプ CC: チャレンジキャンプ

回	会場	期間(期 日)		参加者の状況(人)			
				子ども	保護者	指導員等	合計
1	新潟県少年自然の家	ミニ	5月11日(土)	22	13	0	35
		FC	6月15日(土)~ 16日(日)	31	15	0	46
		CC	7月13日(土)~ 14日(日)	25	14	0	39
2	五頭連峰 少年自然の家	8月25日(日)		15	6	0	21
	国立妙高 青少年自然の家	9月22日(日)		8	5	0	13
3	新潟県少年自然の家	ミニ	11月16日(土)	19	5	0	24
		FC	12月14日(土)~ 15日(日)	33	14	0	47
		CC	1月18日(土)~ 19日(日)	22	14	0	36
延べ参加者数				175	86	0	261
参加者実数				51	27	0	78

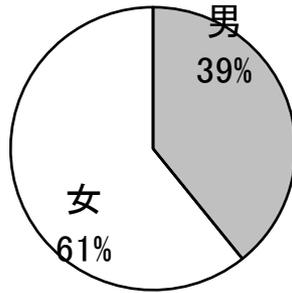
※令和元年度より、保護者オリエンテーションやキャンプに参加した保護者等も人数に含める。



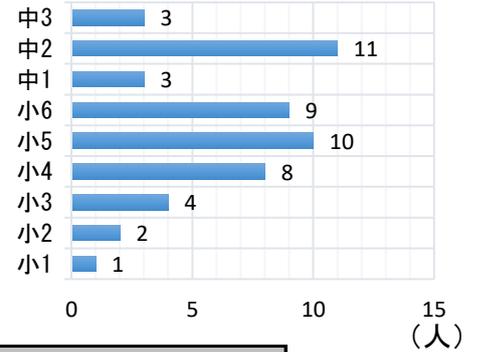
令和6年度「はつらつ体験塾」参加児童生徒の内訳

	小学生	中学生	合計
男	12	8	20
女	22	9	31
合計	34	17	51

【男女別割合】



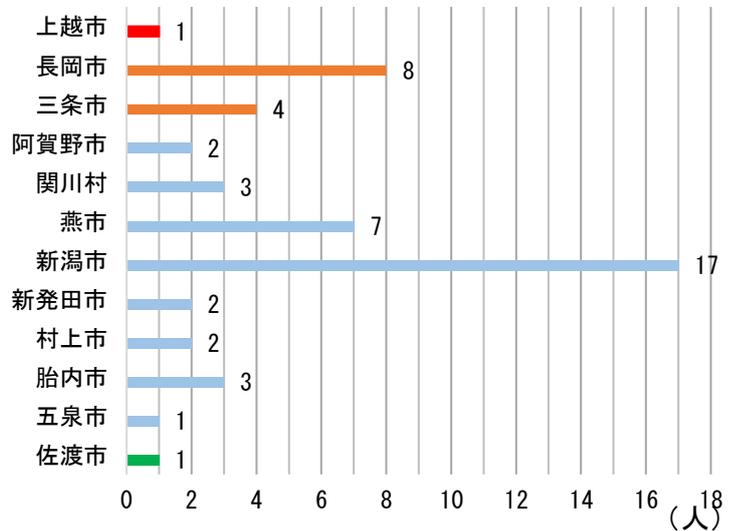
【学年別人数】



	小学生						中学生			合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	
男	0	1	2	2	4	3	2	5	1	20
女	1	1	2	6	6	6	1	6	2	31
合計	1	2	4	8	10	9	3	11	3	51

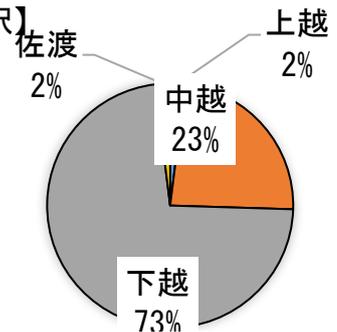
	市町村	小学生	中学生	合計
上越	上越市	0	1	1
	長岡市	5	3	8
中越	三条市	3	1	4
	阿賀野市	2	0	2
下越	関川村	2	1	3
	燕市	4	3	7
	新潟市	11	6	17
	新発田市	1	1	2
	村上市	2	0	2
	胎内市	3	0	3
	五泉市	1	0	1
	佐渡	佐渡市	0	1
合計		34	17	51

【市町村別人数】



	上越	中越	下越	佐渡	合計
小学生	0	8	26	0	34
中学生	1	4	11	1	17
合計	1	12	37	1	51

【地区別内訳】



はつらつ体験塾参加後の児童生徒の様子 1

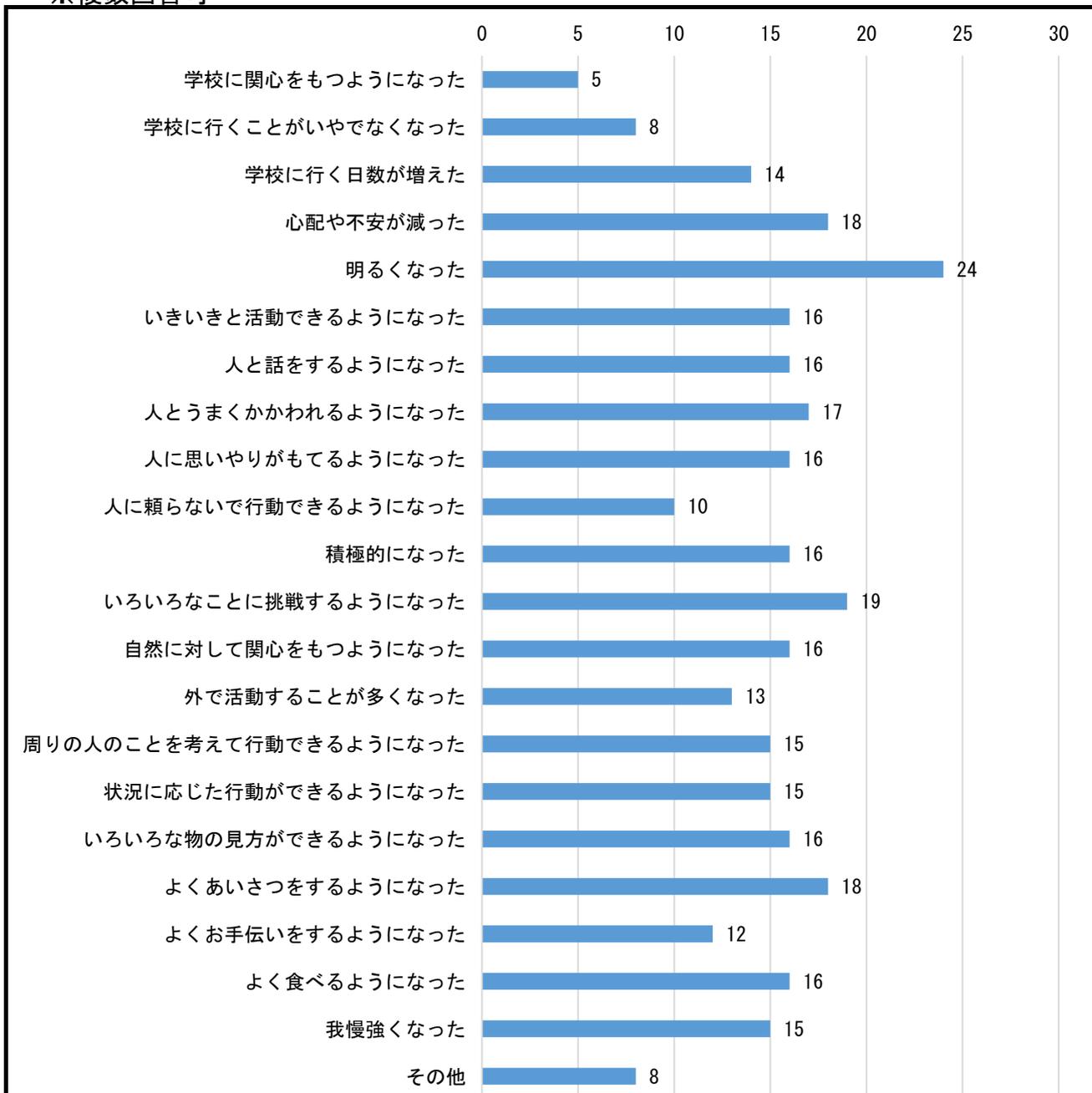
～ 令和6年度 アンケートデータ ～

参加児童生徒アンケート結果

・ 期 間 : 令和7年1月19日～2月28日

・ 回 収 率 : 76.5% (39人)

※複数回答可



<その他（具体的な内容）>

- ・ 友達ができた。（仲のいい人に会える） × 4
- ・ 友達と一緒にいると、気持ちが明るくなる。
- ・ 元気が出る。

はつらつ体験塾参加後の児童生徒の様子 2

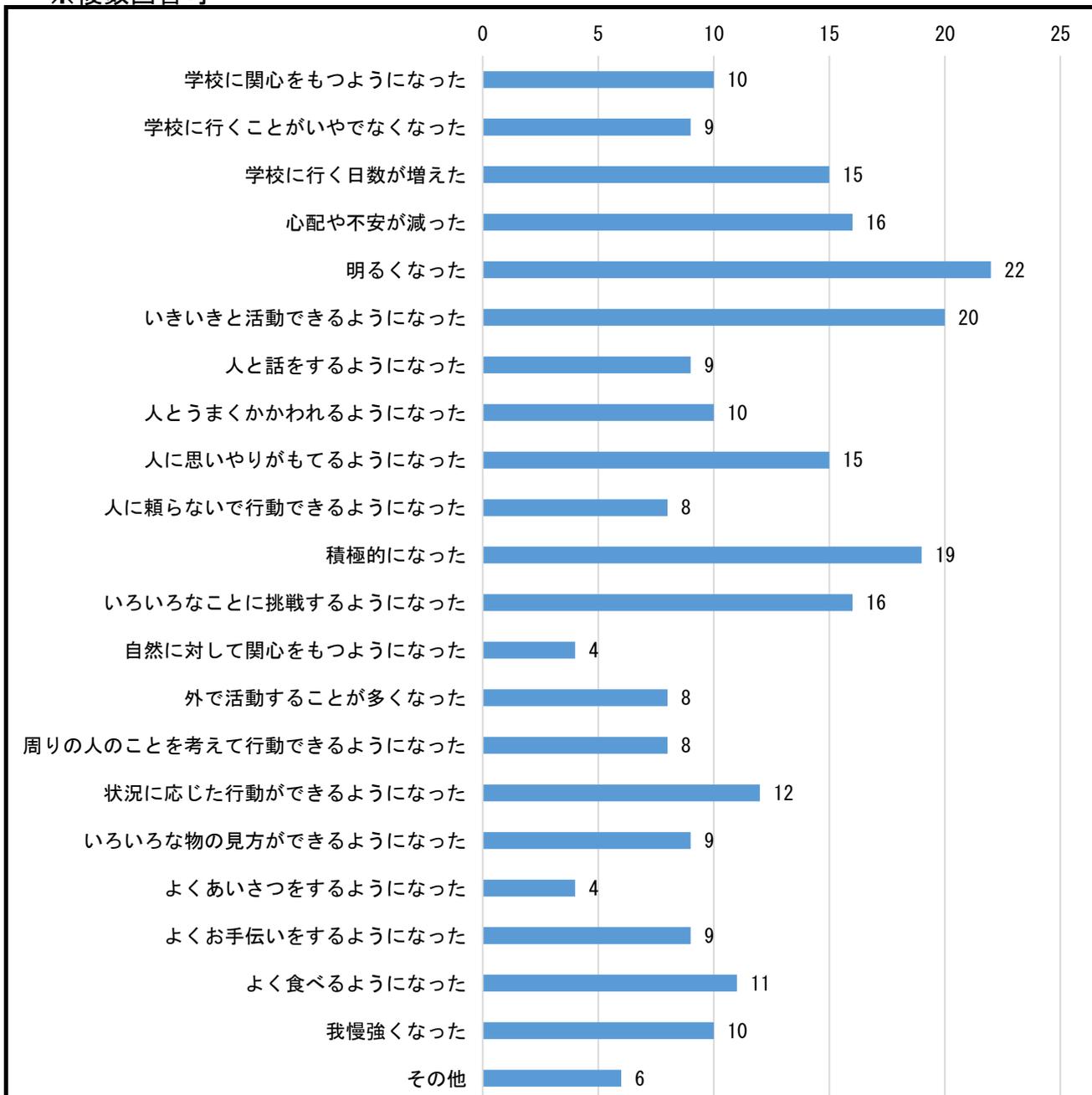
～ 令和6年度 アンケートデータ ～

保護者アンケート結果

・ 期 間 : 令和7年1月19日～2月28日

・ 回 収 率 : 78.4% (40人)

※複数回答可



<その他（具体的な内容）>

- ・ 友達と協力して生活することで自信がついた。×2
- ・ 悩みを話せる友達ができた。
- ・ 思いやりの気持ちが強くなった。
- ・ 前向きで意欲的な言葉が増えた。
- ・ 自分の成長を実感しているように思える。

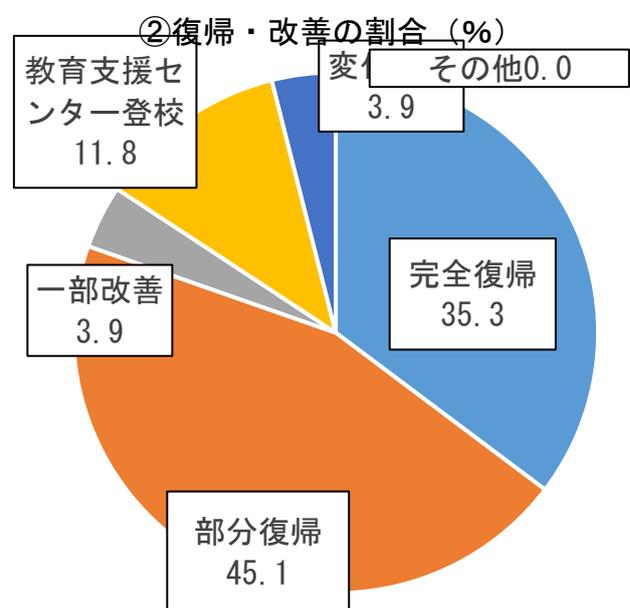
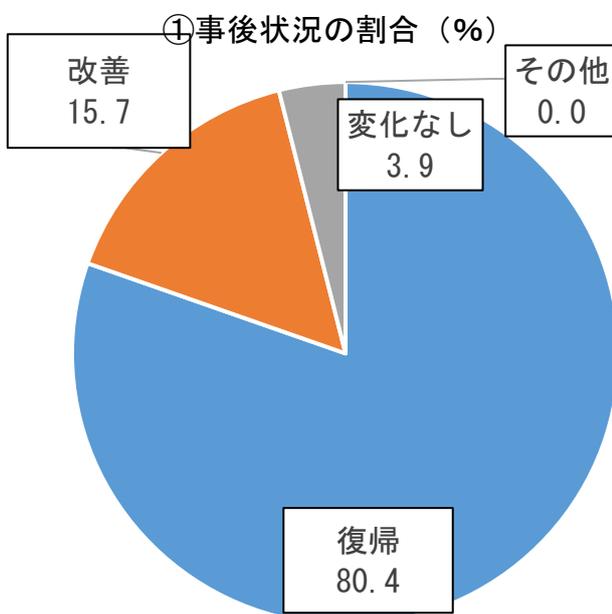
参加児童生徒事後調査結果（保護者回答）

（令和7年5月調査）

※（ ）内は令和5年度の結果

- 1 参加児童生徒人数 51 人（66人）
- 2 延べ参加児童生徒人数 175 人（160人）
- 3 参加保護者人数 27 人（40人）
※保護者オリエンテーションおよび保護者プログラム（カウンセリング）等に参加した人数。
- 4 延べ参加保護者等人数 86 人（73人）
- 5 参加児童生徒の事後状況 調査回答数 51人

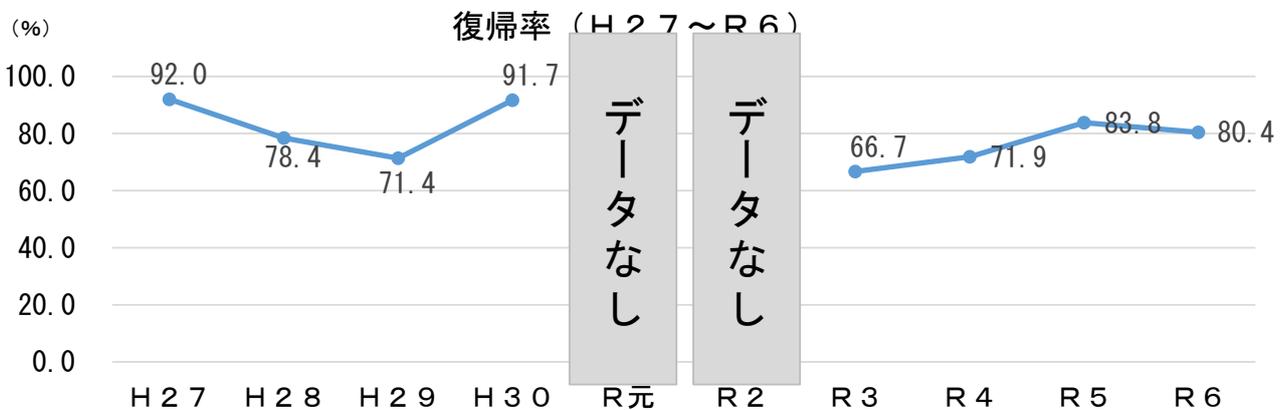
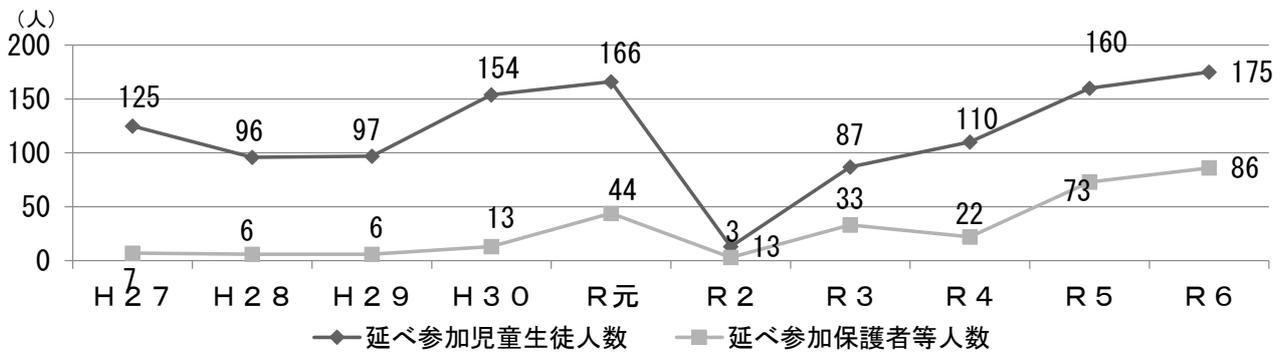
復帰	完全復帰	18	人	35.3	%	継続的に登校。自分の教室に行って通常の授業にいつも出席。（病気以外の欠席はない）
	部分復帰	23	人	45.1	%	①継続的に登校。自分の教室に行って特定の授業等に参加。 ②自分の教室には入れないが、行事などには参加。 ③自分の教室には入れないが、校内の適応学級や保健室で過ごす。
改善	教育支援センター登校	6	人	11.8	%	継続的に市町村の教育支援センターに通っている。所属校には登校しない。
	一部改善	2	人	3.9	%	時々市町村の教育支援センターに行くことがある。所属校には登校しない。
変化なし		2	人	3.9	%	登校と認められる場所には行っていない。
その他		0	人	0.0	%	一時的に登校したが、現在は不登校または不登校傾向。



過去10年の参加・復帰状況等の推移(平成27年度～令和6年度)

	参加者数				復帰率							
	参加児童生徒 人数(実数)	延べ参加 児童生徒人数	参加保護者等 人数(実数)	延べ参加 保護者等人数	復 帰		改 善		変化無し		その他	
					人数(人)	全体に対する 割合(%)	人数(人)	全体に対する 割合(%)	人数(人)	全体に対する 割合(%)	人数(人)	全体に対する 割合(%)
H 2 7	25	125	7	7	23	92.0	2	8.0	0	0.0	0	0.0
H 2 8	23	96	6	6	18	78.4	2	8.6	3	13.0	0	0.0
H 2 9	21	97	4	6	15	71.4	2	9.6	4	19.0	0	0.0
H 3 0	37	154	10	13	22	91.7	0	0.0	0	0.0	2	8.3
R 元	41	166	23	44								
R 2	13	13	3	3								
R 3	35	87	15	33	22	66.7	6	18.2	4	12.1	1	3.0
R 4	32	110	12	22	23	71.9	2	6.3	4	12.5	3	9.4
R 5	66	160	40	73	31	83.8	1	2.7	5	13.5	0	0.0
R 6	51	175	27	86	41	80.4	8	15.7	2	3.9	0	0.0

延べ参加者児童生徒・保護者の人数の推移(H27～R6)



令和6年度「第1回はつらつ体験塾 日帰りミニキャンプ in 胎内」実施状況報告

新潟県少年自然の家

概 要										
実施月日	令和6年5月11日(土) 日帰り									
会 場	新潟県少年自然の家(胎内市)									
天 候	晴れ									
参加状況	募集人数	申込受付数	倍率	決定数	キャンセル数	実参加者数	参加率	大人/子		
	20	22	110.0%	22	0	22	110.0%	13/22		
学年別 参加者数	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
	1人	1人	2人	5人	7人	2人	0人	4人	0人	
市町村別 参加者数 (大人)	新潟市		新発田市		村上市		阿賀野市		胎内市	
	8人(大人4)		1人(大人1)		2人(大人2)		2人(大人1)		1人(大人1)	
	関川村		長岡市		燕市					
	3人(大人2)		1人(大人1)		4人(大人1)					
活動に参加した保護者3人 学生ボランティア3人 (保護者オリエンテーション参加11人)										
日 程	9:30～ 受付	9:45～ 出会いの つどい	9:50～ 出会い のレク	10:20～ 米粉ピザ づくり	12:00 ～ 昼食	13:00～ フォトオ リエンテ ーリング	14:30～ 振り返 り	14:45～ 別れの つどい		
参加者の 声	【児童生徒】									
	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかの人と話ができて楽しかった。 ・楽しかった。 ×9 ・とても楽しく、温かく出迎えてくれたから。 ・友だちと話をして楽しいから。 ・友だちを作れて、いつもうれしいです。 									
	【満足度】									
	アンケート項目						とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん
	今回のキャンプに参加してよかったですか。						17	5	0	0
またこのような機会があったら参加したいと思いますか。						16	6	0	0	
【保護者】										
<ul style="list-style-type: none"> ・私がそばにいと甘えたり他のこどもと話さず私にばかり話しかけたりしてくるので、次回はなるべく距離をとって見守るほうが良いかなと感じました。 ・私自身も楽しんで参加させてもらいました。このキャンプの参加で何かの一步につながればよいと思いました。今度は一人で参加出来たらと思っています。 ・本人が楽しいと言っています。 										
主催者の 所見	<p>これまでは宿泊日程の時にだけ依頼していた学生ボランティアを、今回の日帰りキャンプでも依頼し、参加していただいた。新規参加者を含めた多くの参加者にきめ細かな支援ができたと感じている。そのお陰もあり、お試しで参加した新規参加者のうち、6人から次のキャンプの申込があった。</p> <p>初参加者のこどもが8人もおり、開始前は緊張している様子も見られた。しかし、レクリエーション、米粉ピザづくり、フォトオリエンティングと活動が進むにつれ、様々な参加者と関わる姿があらこちらで見られてきた。最後の別れのつどいでは、笑顔で話を聞く参加者が多く、楽しく有意義な活動となったと思われる。</p> <p>保護者からは、「こどもが『楽しかった。次のキャンプも参加したい』と言っている。」との声が聞こえてきた。はつらつ体験塾の良さが伝わったのだろうと推察している。今後も参加者に楽しんでもらえる活動を取り入れることで、はつらつ体験塾の良さを参加者に感じてもらい、その後のキャンプへの参加意欲につなげたい。</p>									

令和6年度「第1回はつつ体験塾 フレンドリーキャンプ」実施状況報告

新潟県少年自然の家

概 要										
実施月日	令和6年6月15日(土)～16日(日) 一泊二日									
会 場	新潟県少年自然の家(胎内市)									
天 候	晴れ									
参加状況	募集人数	申込受付数	倍率	決定数	キャンセル数	実参加者数	参加率	大人/子		
	30	32	106.7%	31	1	31	103.3%	15/31		
学年別 参加者数	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
	1人	1人	4人	3人	8人	5人	2人	5人	2人	
市町村別 参加者数 (大人)	新潟市		新発田市		村上市		五泉市		阿賀野市	
	11人(大人4)		1人(大人1)		2人(大人2)		1人(大人0)		2人(大人2)	
	胎内市		関川村		長岡市		三条市		燕市	
	1人(大人1)		3人(大人2)		4人(大人0)		1人(大人1)		3人(大人2)	
学生ボランティア:10人 看護師:1人 保護者(キャンプ参加):2人 保護者(交流会参加):15人										
日 程	13:00～ 受付	13:30～ 出合いのつ どい・レク	14:40～ ベッドメ イキング	15:00～ お菓子づ くり	17:30～ 夕食	18:30～ キャンプ ファイア	19:30 ～ お風呂 自由時間	21:30～ 就寝		
	6:00～ 起床	7:30～ 朝食	9:00～ カヌー・海遊び		12:20～ 昼食	13:00～ 振り返り	13:15～ 別れの つどい	13:30 解散		
参加者の声	【児童生徒】 ◎友だちとお菓子をつくることができ、うれしかったです。 ◎初めて参加しました。行く前は心配事も多かったですが、いろいろな体験ができてとても楽しめました。 ◎優しく出迎えてくれたり、話しかけてくれたり、ほめてくれたりしてくれて、うれしかった。 ◎友だちができたし、同じ部屋の人とも仲良くできた。									
	【満足度】 (31名が回答)									
	アンケート項目						とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん
	今回のキャンプに参加してよかったと思いますか。						23	8	0	0
またこのような機会があったら参加したいと思いますか。						21	10	0	0	
【保護者】 ◎スタッフさんやボランティアさんに、娘が自分から積極的に話しかけられるようになったのでよかったです。うれしく思いました。 △キャンプの内容は子どもも楽しくできそうではあったのに、班の子どもたちの交流がなく、うちの子どもは楽しく感じられませんでした。										

主催者の
所見

- ・参加人数が大変多く、開始直後は、他の参加者や集団に馴染めない子や不安そうにしている子が多くいた。しかし、学生ボランティアの優しいはきはきとした声掛けのおかげで安心して活動に取り組むことができていた。
- ・参加者の中に、特別な配慮を要する子どもがいる。キャンプを重ねることに、その割合が多くなっているように感じられる。これまでも様々な場面で配慮をしてきたが、今後は一層の配慮をしていくことが必要となる。特に、長い話や複数の指示を覚えていられないような子どもに対して、端的で分かりやすい話し方を心がける。

令和6年度「第1回はつらつ体験塾 チャレンジキャンプ」実施状況報告

新潟県少年自然の家

概 要										
実施月日	令和6年7月13日(土)～14日(日) 一泊二日									
会 場	新潟県少年自然の家(胎内市)									
天 候	曇									
参加状況	募集人数	申込受付数	倍率	決定数	キャンセル数	実参加者数	参加率	大人/子		
	30	30	100.0%	30	5	25	83.3%	14/25		
学年別参加者数	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
	1人	1人	3人	2人	6人	3人	3人	5人	1人	
市町村別参加者数(大人)	新潟市		新発田市		村上市		胎内市		阿賀野市	関川村
	10人(大人4)		1人(大人1)		2人(大人2)		1人(大人1)		2人(大人1)	3人(大人2)
	長岡市		三条市		燕市		上越市			
	3人(大人0)		1人(大人1)		1人(大人2)		1人(大人0)			
学生ボランティア:8人 看護師:1人 保護者:14人(キャンプ参加4人、保護者プログラム参加10人)										
日 程	13:00 受付	13:30 出合いのつどい レク	14:10 オリエンテーション テント設営	15:30 グラウンドゴルフ	17:30 夕食	18:30 ナイトハイク	19:30 お風呂 自由時間	21:30 就寝		
	6:00 起床 朝のつどい	7:30 朝食	8:00 テント片付け	8:50 野外炊さん	11:30 昼食	12:50 振り返り	13:05 別れのつどい	13:30 解散		
参加者の声	【児童生徒】 ◎いろいろなことにチャレンジしてとても疲れたけど、初めてやってできたことがたくさんあってよかった。 ◎初めての野外炊さんやグラウンドゴルフが楽しかった。 ◎またテントで寝たい。									
	【満足度】 (25名が回答)									
	アンケート項目					とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん	
	今回のキャンプに参加してよかったと思いますか。					21	4	0	0	
またこのような機会があったら参加したいと思いますか。					22	3	0	0		
【保護者】 ◎ナイトハイクが怖いからいやだと言っていましたが、グループの人たちと仲良くなれたおかげで、安心してチャレンジでき、自信がついた。 ◎説明の際、一つ一つの指示を紙に書いてあるものや動画を見せることで子どもがイメージをつかんで参加できた。グループの構成も良かった。										
主催者の所見	◎テント設営、テント泊、グラウンドゴルフ、野外炊さんと参加者が初めてチャレンジする内容が多かったが、参加者それぞれに充実感・達成感を感じることができた。									
	◎事前に学生ボランティアに研修を行った。参加者の主体性とチャレンジする気持ちを尊重し、過度に手助けすることなく見守る姿勢や思いを受け止める姿勢が見られた。参加者が充実感・達成感を感じるために有効であった。 ▲遠方からの参加希望があり、はつらつ体験塾が周知されていることを実感した。反面、屋外でのテント泊ということもあり、事前のキャンセルが多かったことは残念であった。									

令和6年度「はつらつ体験塾 日帰りミニキャンプ in 五頭」実施状況報告

新潟県少年自然の家

		概 要									
実施月日	令和6年8月 25 日(日) 日帰り										
会 場	五頭連峰少年自然の家										
天 候	曇り										
参加状況	募集人数	申込受付数	倍率	決定数	キャンセル数	実参加者数	参加率	大人/子			
	20	15	75.0%	15	0	15	75.0%	6/15			
学年別 参加者数	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3		
	0	2	1	2	5	2	0	2	1		
市町村別 参加者数 (大人)	新発田市		燕市		新潟市		関川村		長岡市		村上市
	1人(大人1)		2人(大人1)		4人(大人0)		2人(大人1)		2人(大人1)		2人(大人1)
	阿賀野市		三条市								
	1人(大人1)		1人(大人0)								
学生ボランティア:2人 保護者:6人(キャンプ参加6人)											
日 程	9:30	9:45	10:00		13:30	14:30	15:20		15:30		
	受付	出 会 い の つどい	沢 登 り		昼 食	ど ん どん ク リ ア 五 頭 の 陣	振 り 返 り		別 れ の つどい		
参加者の 声	【児童生徒】										
	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったし成長できたと思った。 ・友達や友達のお母さんに会って話せてよかった。 ・体験したことがないことにチャレンジできた。 ・沢登りの時に、所員の方が助けてくれた。 										
	【満足度】										
	アンケート項目						とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん	
今回のキャンプに参加してよかったと思いますか。						11	4	0	0		
またこのような機会があったら参加したいと思いますか。						12	3	0	0		
主催者の 所見	◎沢登りでは、川の強い流れや、水深2m以上の深場にも負けずに進む参加者のたくましい姿が見られた。日帰りのミニキャンプではあったが、楽しみながら心身共に成長できる、非常に有意義な活動だった。										
	◎丸太切りや弓矢飛ばしなど、屋外に用意された様々なミニ体験にチャレンジする「どんだんクリア五頭の陣」は、短い時間の中に達成感を味わえる場面が数多くあり、参加者の満足度が高かった。										
	▲当日の天候から、午前と午後の活動を入れ替えて実施した。予想していたよりも沢登りに時間がかかってしまった。参加者が十分に活動に取り組んでいけるように時間にゆとりのあるスケジュールをたてていく必要性を実感した。										

令和6年度「はつらつ体験塾 日帰りミニキャンプ in 妙高」実施状況報告

新潟県少年自然の家

概要										
実施月日	令和6年9月22日(日) 日帰り									
会場	国立妙高青少年自然の家									
天候	雨									
参加状況	募集人数	申込受付数	倍率	決定数	キャンセル数	実参加者数	参加率	大人/子		
	20	8	40.0%	8	0	8	40.0%	5/8		
学年別参加者数	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
	0	2	0	1	2	1	1	1	0	
市町村別参加者数(大人)	村上市		新発田市		新潟市		燕市		長岡市	上越市
	2人(大人2)		1人(大人1)		2人(大人1)		1人(大人0)		1人(大人1)	1人(大人0)
	保護者:5人(キャンプ参加5人)									
日程	9:00	9:15	9:30		12:30	13:00		14:45	15:00	
	受付	出合いのつどい	そば打ち体験 昼食		休憩	勾玉づくり ※雨天案実施		振り返り	別れのつどい	
参加者の声	【児童生徒】 ・ここでしか会えない友達と会えることがうれしい。 ・学校だと友達作りがむずかしくてなかなか友達ができないけれど、このキャンプだと自分から参加した友達に声をかけやすく、友達作りもしやすい。 ・新たな挑戦もできるし、縁も広がる。 ・友達とまた話をしたり、遊んだりしたい。									
	【満足度】									
	アンケート項目					とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん	
	今回のキャンプに参加してよかったですか。					7	0	0	1	
またこのような機会があったら参加したいと思いますか。					8	0	0	0		
※ぜんぜんと答えた参加者の理由は、不明であるが、このような機会があれば参加したいかという質問には、とても参加したいと答えている。										
主催者の所見	◎そば打ち体験は、講師を招いて実施した。講師によるデモンストレーションから始まり、その後、参加者がそれぞれの班に分かれて活動した。参加者と講師が楽しそうにコミュニケーションを取り、参加者同士仲良く、積極的に活動する姿が見られた。									
	◎午後の活動は、オリエンテーリングを予定していたが、天候不順での勾玉づくりを実施した。勾玉づくりは、材料を粘り強く削る作業に苦戦する姿も見られたが、最後まであきらめることなく全員が作品を完成させることができた。集中して取り組んだ後、お互いに作品を見せ合ってコミュニケーションを取っている姿が見られた。									
	▲今年度の継続的に参加する方の多くが、長岡市よりも北の地域から参加している。そのため、今回の実施場所が遠いため、募集を開始しても参加人数が増えなかった。今後は、実施場所の選定について工夫していく必要があるように感じた。									

令和6年度「はつらつ体験塾 日帰りミニキャンプ」実施状況報告

新潟県少年自然の家

		概 要									
実施月日	令和6年 11 月 16 日(土) 日帰り										
会 場	新潟県少年自然の家										
天 候	快晴										
参加状況	募集人数	申込受付数	倍率	決定数	キャンセル数	実参加者数	参加率	大人/子			
	20	22	110.0%	22	3	19	95.0%	5/19			
学年別 参加者数	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3		
	0	1	1	3	5	4	1	3	1		
市町村別 参加者数 (大人)	村上市		新発田市		新潟市		燕市		長岡市		関川村
	1人(大人0)		1人(大人1)		4人(大人1)		3人(大人2)		2人(大人0)		3人(大人0)
	胎内市		阿賀野市								
	3人(大人1)		2人(大人0)								
	保護者見学1名 保護者オリエンテーション参加者3名										
日 程	9:30	9:45	9:55	10:20	12:00	13:00	14:30	14:45			
	受付	出 会 会 のつどい	出 会 会 のレク	もちつき	昼食 休憩	竹とんぼづくり	振り返り	別れの つどい			
参加者の 声	【児童生徒】										
	<ul style="list-style-type: none"> ・気の合う友達がいっぱいて楽しかった。 ・いろいろなことを学べた ・他の参加者の人を助けたりコミュニケーションをとったりするのが楽しかった。 ・毎回、自分のためになることを教えてくれる。 										
	【満足度】										
	アンケート項目						とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん	
	今回のキャンプに参加してよかったですか。						16	3			
またこのような機会があったら参加したいと思いますか。						15	4				
【保護者】											
<ul style="list-style-type: none"> ・学校ではしり込みをしますが、はつらつ体験塾ではたくさんの人数でも大丈夫みたいで娘がリラックスして参加できている。 ・家の外で活動する良い機会になった。 ・本当に明るく子供達を楽しませてくれて本当にありがとうございました。 ・スタッフの方々の温かい対応に感謝しております。 ・子供自らが楽しんでいました。ありがとうございました。 											
主催者の 所見	初参加の児童生徒は不安や緊張から集団に入りにくい場面もあったが、活動が進むにつれて気持ちがほぐれ、他の参加者と関わりながら活動を楽しむ姿が見られた。また、3名から次のキャンプに申し込みがあった。短時間ではあったが、学生ボランティアと事前に打ち合わせを行ったことで広く視野をもち、児童生徒だけでなく、参加保護者に対しても十分なかかわりができたと感じている。										

令和6年度「第3回はつらつ体験塾 フレンドリーキャンプ」実施状況報告

新潟県少年自然の家

概 要										
実施月日	令和6年12月14日(土)～15日(日) 一泊二日									
会 場	新潟県少年自然の家(胎内市)、イオンモール新発田(新発田市)									
天 候	曇り時々雪									
参加状況	募集人数	申込受付数	倍率	決定数	キャンセル数	実参加者数	参加率	大人/子		
	30	35	116.7%	35	2	33	110.0%	14/33		
学年別 参加者数	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
	0人	1人	2人	5人	7人	6人	0人	10人	2人	
市町村別 参加者数 (大人)	新潟市		長岡市		燕市		関川村		新発田市	
	7人(大人2)		7人(大人2)		3人(大人2)		3人(大人2)		2人(大人1)	
	村上市		三条市		阿賀野市		胎内市			
	2人(大人2)		4人(大人1)		2人(大人1)		3人(大人1)			
	学生ボランティア:7人 保護者:14人【保護者プログラム(交流会)参加:11人 キャンプ参加:3人】									
日 程	13:00～ 受付	13:30～ 出会いの つどい・レク	15:00～ クリスマスクッキング	17:30～ 夕食	18:30～ キャンドル ファイア	19:30～ お風呂 自由時間	21:30～ 就寝			
	6:30～ 起床	7:30～ 朝食	8:30～ 電車に乗ってランチ in イオンモール新発田	12:50～ 振り返り	13:00～ 別れのつどい	13:10 解散				
参加者の 声	【児童生徒】 ◎いろいろな人とお話ができて、うれしかったです。ケーキ作りやビンゴが楽しかったです。 ◎活動班や宿泊班の人たちがみんな仲良くしてくれたり、たくさん関わったりできて楽しかったです。他学年の人たちとも協力し合い、楽しく活動でき、いい体験になりました。 ◎活動班のみんなとも宿泊班のみんなとも話すことをがんばりました。 【満足度】(33名が回答)									
	アンケート項目					とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん	
	今回のキャンプに参加してよかったですか。					28	5	0	0	
	またこのような機会があったら参加したいと思いますか。					25	8	0	0	
保護者の 声 (キャンプ 参加者)	【保護者】 ◎毎回子供が楽しみにしていて、泊まりはハードルが高かったのですが、チャレンジしました。母同伴でしたが、そのうち一人で参加できそうな感じでうれしく思いました。 ◎子供がキャンプをとっても楽しみにしていて、準備も自分でしていました。季節ごとに定期的 に開催してもらえるので、目標や楽しみをもって生活にメリハリをつけられるので、とてもあ りがたいです。 ◎兄弟で初参加でした。通常は人と話すのに時間がかかるのですが、初めて出会った方々 と言葉を交わすことができ良かったです。 【満足度】(3名が回答)									
	アンケート項目					とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん	
	今回のキャンプに参加してよかったですか。					3	0	0	0	

主催者の
所見

◎2 日目の「電車に乗ってランチ」では、多くの児童生徒にとっては保護者がいない中で、電車に乗ったり、昼食を食べたりすることができ、とても満足感がある楽しい活動となった。自然の家を離れての活動ではあったが、学生ボランティアが各班に入り、参加者の活動のサポートをしてもらったことで、安心安全な活動にすることができた。

◎開催前日に看護師ボランティアから不参加の連絡があった。代替りの看護師ボランティアを見つけることができなかったため、所員で看護師の仕事を分担して行った。今後も、不測の事態に対応できるよう、様々なトラブルを想定し、対応策を考えていきたい。

▲参加児童生徒が 33 人と、募集人数を超える参加があった。また、連絡調整の不備や急な体調不良もあり、学生ボランティアや看護師を十分に確保することができなかった。それでも、しっかりとした計画・準備がなされたことで、大きなトラブルなく全日程を終えることができた。しかし、参加者への十分な配慮や安全面を保証していくためにも、今後のキャンプにおいて、人数の制限(募集人数を超えた時は抽選を行うのか)等について、担当者間でも議論したい。

令和6年度「第3回はつらつ体験塾 チャレンジキャンプ」実施状況報告

新潟県少年自然の家

概 要										
実施月日	令和7年1月 18日(土)～19日(日) 一泊二日									
会 場	新潟県少年自然の家(胎内市)									
天 候	晴れ									
参加状況	募集人数	申込受付数	倍率	決定数	キャンセル数	実参加者数	参加率	大人/子		
	30	25	83.3%	25	3	22	73.3%	14/22		
学年別参加者数	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
	0人	2人	1人	2人	7人	4人	0人	4人	2人	
市町村別参加者数(大人)	新潟市		長岡市		燕市		関川村		阿賀野市	
	6人(大人4)		5人(大人0)		1人(大人2)		1人(大人2)		2人(大人1)	
	村上市		三条市		胎内市		新発田市			
	2人(大人2)		1人(大人1)		3人(大人1)		1人(大人1)			
学生ボランティア:7人 看護師1人 保護者:14人 【保護者プログラム参加:12人】										
日 程	13:00～ 受付	13:30～ 出会いのつど い・レク	15:00～ フォトフレ ームづくり	17:30～ 夕食	18:30～ お楽しみチャ レンジの準備	19:30～ お風呂 自由時間	21:30～ 就寝			
	6:30～ 起床	7:30～ 朝食	8:30～ お楽しみチャレンジ	10:00～ カレーうどんづくり	13:00～ 別れのつどい	13:10 解散				
参加者の声	◎最後だったけど、班の人やそれ以外の人ともたくさん仲良くできて楽しかったです。ボランティアのひともし優しくて安心してできました。カレーうどんもフォトフレームもお楽しみチャレンジも、自由時間もたのしかったです。									
	◎洗い物をするときの水が冷たかったけどがんばれた。									
	◎お楽しみチャレンジでは急にリーダーになったけど何とか成功出来て良かったです。									
	◎フォトフレームはアイデアを出してむちゅうでできました。									
【満足度】(22名が回答)										
アンケート項目					とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん		
今回のキャンプに参加してよかったですか。					18	4	0	0		
またこのような機会があったら参加したいと思いますか。					16	6	0	0		
保護者の声(保護者プログラム参加者)	◎学校とは違う雰囲気楽しく過ごせているようです。学生ボランティアさん、職員の皆さんもあたたかく接してくださっていてとても良い経験ができていますと思います。ありがとうございます。									
	◎今回は兄弟2人が参加できなく、とても残念でした。でも座談会でそのことを聞いてもらえ、そんな時があってもいいかと思えました。座談会は毎回充実しているのでまた企画してほしいです。									
	◎親もはつらつできました。子ども同士つながり、親も仲良くなり、心が元気になりました。									
	【満足度】(12名が回答)									
アンケート項目					とても	まあまあ	あまり	ぜんぜん		
保護者座談会に参加してよかったですか。					11	1	0	0		

主催者の
所見

- ◎フォトフレームづくり、お楽しみチャレンジ、カレーうどんづくりと、主な活動を3つ設定したことで、子どもたちの多様な興味・関心に応えることができた。各活動のねらいに応じたコンセプトを担当から分かりやすく説明したことで、子供たちが活動を十分に楽しむ姿が見られた。
- ◎お楽しみチャレンジは、学生ボランティアの見守り、質問の支援を中心に、子供たちに思考ツールを提示してアイデアを整理させたことでどの班も楽しい遊びを行うことができた。
- ◎保護者プログラムでは同様の悩みを抱える保護者と交流することで「心が軽くなった」「元気になった」という意見が多数聞かれた。
- ◎今回参加した学生ボランティアは、参加経験のある方が多かった。経験を重ねることでキャンプのねらいと班の子どもたちの目標を意識して関わろうとする場面が多く見られた。
- ◎キャンプの振り返りでは、班の中でメンバーの良いところを一人一人が伝え合う場面を取り入れた。時間はかかったが、自己評価だけでなく、他者評価も取り入れたことで客観的に自分を振り返ることができたという参加者が多く見られた。
- ▲学生ボランティア 10名の募集に対して7名の参加であった。よりよい活動を参加者に提供していくためにも大学のボランティアセンターとの連携を強化していきたい。直接、説明に出向き、継続して協力していただいている学生ボランティアの声を紹介していけると良い。
- ▲保護者プログラムはおおむね良い評価を得ているが、一方で学校の対応への不満などネガティブになる場面が多い。話を聞いてもらえる、発信できるという安心感はあるものの、参加者の学びという観点では効果が上がっていないように感じられる。子どもの自立について考え、今、親として何ができるかを学びとして提供できるようにしていきたい。具体的には不登校を経て社会にどのようにかかわっていったか講師を招いて話を聞き、子供たちの自立について話し合うことや自立に向けて家庭での子どもの学びについて考えるなどの取組が考えられる。

Ⅱ 推進委員会

不登校児童生徒体験活動推進事業「はつらつ体験塾」推進委員会設置要綱

【設置】

第1条 不登校児童生徒体験活動推進事業「はつらつ体験塾」を効果的に推進するために、不登校児童生徒体験活動推進事業「はつらつ体験塾」推進委員会を（以下「推進委員会」という。）を設置する。

【協議】

第2条 推進委員会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 事業の推進計画の策定に関すること
- (2) 事業の実施・運営に関すること
- (3) その他、必要なこと

【構成】

第3条 推進委員会は別表に掲げる委員及びオブザーバーをもって構成する。
2 推進委員会には、委員の互選による委員長及び副委員長を置く。

【委員の任期】

第4条 委員の任期は、当該年度とし、再任を妨げない。

【会議】

第5条 会議は、新潟県少年自然の家所長が招集する。
2 委員長は、推進委員会の議長となる。
3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故ある時は、その職務を代理する。
4 委員長は、必要があると認めるとき、推進委員会に委員以外の関係者の出席を求めることができる。

【事務局】

第6条 推進委員会には、協議事項をあらかじめ整理するため、別表に掲げる事務局を置く。

【庶務】

第7条 推進委員会の庶務は、新潟県少年自然の家指導課及び庶務課において処理する。

附 則

この要綱は、平成16年4月1日から施行する。

令和6年度不登校児童生徒体験活動推進事業「はつらつ体験塾」

推進委員会 名簿

	名 前	役 職
推 進 委 員	若狭 陽一	五泉市立五泉南小学校 校長
	庭田 雅範	阿賀野市立水原中学校 校長
	内川 未奈希	県立長岡大手高等学校 教頭
	小室 謙司	県立教育センター 指導主事
	藤塚 静治	新潟市教育相談センター 所長補佐
	伊藤 彰	新潟県少年自然の家 所長
オ ブ ザ ー バ ー	宇佐美 崇	新潟県教育庁生涯学習推進課 青少年家庭教育係 副参事
	近藤 宏	新潟県教育庁生徒指導課 指導主事
	玉木 政彦	国立妙高青少年自然の家 主任企画指導専門職
	相澤 文哉	国立妙高青少年自然の家 企画指導専門職
事 務 局	星野 貴之	新潟県少年自然の家 指導課 社会教育主事
	保坂 吉彦	新潟県少年自然の家 指導課 社会教育主事
	須田 洋介	新潟県少年自然の家 指導課 社会教育主事
	伊藤 和子	新潟県少年自然の家 庶務課 主査

令和6年度

はつらつ体験塾 推進委員会 議事概要

期日： 令和6年10月25日（金）

時間： 14：00～16：00

会場： 県立生涯学習推進センター

※ ZOOM でのオンライン開催

委員： 若狭陽一、庭田雅範、内川未奈希、小室謙司、藤塚静治、伊藤 彰

オブザーバー： 宇佐美崇、近藤 宏、玉木政彦、相澤文哉

事務局： 星野貴之、保坂吉彦、須田洋介、伊藤和子（欠席）

1 開会の挨拶（伊藤所長）

はつらつ体験塾は、平成9年にはじまり、今年度で28年目を迎えている。私は、平成21年度から3年間、所員として自然の家に勤務していた。「はつらつ体験塾」も担当したが、参加者集めに苦労したことが心に残っている。現在は、推進委員の皆様からいただいたご意見をもとに工夫・改善を重ね、多くの参加者を迎えることができるようになった。おかげさまで、子供の自立を支援することができる喜びと、その責任の大きさを感じている。文部科学省の調査によれば、不登校・不登校傾向の子供は、年々増加し、多様な学びの場が求められている。「現在は、不登校の子供をどうフォローするかを考える段階に来ており、様々な居場所づくりを進める必要がある。」との課題提起もあり、「はつらつ体験塾」の意義は高まっている。ご存じのとおり、来年度から当自然の家の運営は、指定管理者制度に移行となるが、「はつらつ体験塾」については県主催事業として存続することが決まっている。そのような現状を踏まえ、報告をお聞きいただき、ご意見をお聞かせいただきたい。

2 委員長挨拶（若狭委員長）

本日は、はつらつ体験塾推進委員会にご参会いただきまして感謝申し上げます。30年近くも行われている本事業は、それだけに価値のあるすばらしい事業だと感じている。本事業の直接の推進に当たられている、伊藤所長をはじめ、県少年自然の家の皆様、関係機関の皆様にご感謝申し上げます。伊藤所長よりお話があったように、現在、不登校がますます増加している。そのような児童生徒がエネルギーを蓄え、一歩外へ社会に出られるようになることを私たちは切に望んでいる。しかし、学校のみだけでは対応しきれないのが現状である。さらに、学校だけが居場所となる時代ではなくなっている。そのような中、このはつらつ体験塾を通し、エネルギーを蓄え、一歩前へ進んだ児童生徒、元気をもらった保護者がたくさんいると聞いている。本日は、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただき、本事業をますます推進させていきたい。

3 自己紹介

4 報告（進行：伊藤所長）

(1) はつらつ体験塾について（事業の説明）

- (2) 令和5年度 はつらつ体験塾 実施状況報告
- (3) 令和6年度 はつらつ体験塾 実施状況報告
- (4) 令和6年度の成果と課題

宇佐美： 要項の5.6ページに調査結果において、非常に高い復帰率であり、とても素晴らしいと思う。しかし、66人の参加があるにもかかわらず、回答が37人となっている。どのように調査の回収をされているのか教えていただきたい。

星野： 令和5年度の参加者へ対して、当初は令和6年4月以降に封書で回答を求めた。ある程度回収はできたものの、それだけで十分な回答を集めることが難しかった。そこで、未回収の保護者に対して「Google formで回答してください」という形で、再度の回収を行った。それで回収できたのが37人ということであった。事務局としても、もう少し集めたかったが、なかなか難しかったと感じている。

伊藤： なかなか回答いただけず、催促電話連絡等で依頼をして何とかいただけたのが、その数字である。また、復帰率については、いつも高い数字ではあるが、注意が必要である。全く学校へ行けなかった子供が復帰できた、ということではない。この中には、ある程度学校へ登校できているが不登校傾向があるというような状況で、はつらつ体験塾に参加している子供もいるという点である。

近藤： はつらつ体験塾は基本的に不登校の子供を対象に声掛けしていると思うが、完全復帰した子供は、申し込みができないというような仕組みなのか。学校に復帰したけど、はつらつ体験塾が楽しいから、毎年参加している子供もいるのではないかと想像したもので、そのあたりの実態を教えていただけきたい。

星野： 実際に、学校へ復帰している子供が、今年度参加している状況がある。ただし、復帰はしているが、まだ登校への不安があるので参加している子供もいるし、ある程度復帰しているが、はつらつ体験塾が楽しいから参加しているという子供もいるように感じている。私たちとしては、基本的には不登校の子供を対象にしているが、その部分の線引きが難しく感じている。この子はもう完全に復帰して、もうはつらつ体験塾を卒業していいのではと思う子供については、次の場面、次の場所に行っていただけることがベターであると考えている。しかし、申込をしてきた子供の内面を判断することが難しく、今年度申し込みがあった子供については、基本的には受け入れている。

近藤： 私たちとしては、学校に行っている子供の中にも、渋々登校している子供もたくさんいると考えているので、そのような子供にしてみれば、はつらつ体験塾が気分転換の場になっており、非常に効果があると思われる。受け入れていただく裾野があるのは大変ありがたい。

もう一点。はつらつ体験塾に参加すると、完全復帰や部分復帰といった成果が出ていることに対して、どのように分析しているか教えてほしい。

星野： その点については、分析ができていない、難しいのが現状である。ただ、その点がもっと分かると、今後のはつらつ体験塾で重点化したいところが見えてくるかと思うので、私たちの今後の課題として、もう少し分析の仕方、やり方等々を考えていく必要があると感じている。

近藤： これまで、どのような内容のアンケートをとっているのか分からないが、内容や取り方について検討していくと、今後に活かせるかと思う。

伊藤： なかなか不登校や不登校傾向の子供は、普段の経験が限られている。そこで、はつらつ体験塾に参加することで、いろいろな友達とめぐり会ったり、普段できないような活動に取り組んだりすることもできる。もちろん、その中にすぐに入っていけない子供もいる。しかし、学生ボランティアが後押ししてくれる中で、性格が前向きになったり、また行動が変容したりしていくのではないかと感じている。

それと、復帰した子供も参加しているのかという質問もあったが、以前であれば参加者が少なかったこともあり、申し込んできた子供であればすべて受け入れていた。そのため、学校に行きたくないと感じている子供だけでなく、特別支援の子供や普段経験が乏しく、他の子供と一人では関わるできない子供に対しても、学生ボランティアがいるので対応してもらえると嬉しい、というような形のキャンプになりかけたこともあった。しかし、現在は、学校に復帰したとしても欠席をしていた、または、しているというような事実を基に参加者を選んでいる。誰でも申し込みがあれば受け付けるということではない。どのような状況にあるのかを確認しながら、参加の申し込みを受けているという状況にある。

小室： 不登校傾向にある子供が参加しているはつらつ体験塾は、学生とか看護師や養護教諭を目指している人にとっても、素晴らしい経験の場にもなっているかと思う。この学生ボランティアや看護師の募集は、どのような方法で行っているのか。また、ボランティア募集のチラシには謝礼を渡していると記載があるが、謝礼はいくら渡しているのか。

星野： 学生ボランティアと看護師では、募集の方法が少し異なっている。学生ボランティアについては、毎年、年度末に各大学へチラシを配布している。学生ボランティアは、毎年多くの学生から申し込みをいただいている。宿泊のあるキャンプでは 10 人程度募集しているが、多いときには 20 人ぐらいの参加申し込みがある。確保は十分に行えている状況である、看護師については、看護師資格、または養護教諭資格を持っている方を探すことが難しい状況である。自然の家の近隣に住んでいて、資格を持っている方にご登録をいただいている、その方に連絡をしている。しかし、ご高齢の方が多くなり、登録が少なくなっている。また、新潟大学の養護教諭特別別科の学生から参加の申し込みもある。ただし、そちらは参加希望者が限られている。謝礼については、一泊二日のキャンプでは、学生ボランティアは 3000 円プラス交通費。看護師は 1 万 1100 円プラス交通費である。ただし、学生ボランティアも看護師からもキャンプの参加費はいただいている。

若狭： 先ほど話題になったデータ分析に関連して話をします。調査回答数が 37 人とあるが、参加者児童生徒が 66 人となっていると、およそ 30 人答えていないことになる。ということは、回答してくれた人は、はつらつ体験塾に参加してある程度満足感を得られた人ではないか。つまり、それだけではないと思うが、回答しなかった人は、あまり満足感を得られなかったのではと思われる。

それと、先ほど話があった部分復帰や部分復帰のことであるが、変容という観点から考えると、申し込む前の状況を把握しておく必要がある。申込時に現在の状況を取っておき、復帰についてのアンケート調査の結果と見比べて、変容を確認しても良いのではないかと。それであると、この 37 人という少ない人数の回答の中で分析というのは、少し難しいのではないかと。

であれば、あまり無理をしなくてもいいのではないかとも思う。それよりも、一言で不登校といっても、子供の状況は千差万別であるので、より多くの子供が参加できる事業として継続して欲しいというのが感想である。

星野： 事務局としても、回答数が少ないとの認識であった。これについては、回答数を増やすことも大切であるが、若狭委員長のお言葉のように、その子供の姿容について追えるようにしていくことも大切であると考え。事務局では、はつらつ体験塾に参加申し込みがあった時点で、全保護者の方に連絡をとり、そのお子さんの状況というのはすべて確認し記録している。そこから、姿容については確認していけるので、今後のアンケート分析方法の参考にしたい。

藤塚： 今ほどの委員長の話を聞いての感想であるが、復帰についてはとても大切なことであると思う。ただ、それだけではなくて、子供がキャンプに参加して体験した活動の積み重ねから、「自信がついた」とか、「自分のよさを自覚することができた」などの感想があれば、大変素晴らしい活動になったと思う。それがその後のはつらつ体験塾やその他いろんな積み重ねによって、さらに子供が成長していく糧となり、復帰にも繋がっていくのではないかと思う。

星野： 子供の振り返りから、姿容を気づかせることも大事になっていくかと思う。だからこそ、アンケートと合わせてキャンプでの振り返りについても改善できるところはしていきたい。

内川： 私は、はつらつ体験塾に長くかかわらせていただいているが、申込者が募集人数を上回る状況を初めて見たように思う。ここまで来るには、これまでの広報活動や適応指導教室への働きかけ等に対して感謝を申し上げたい。ただ、参加者数が増えれば、最初の情報収集の部分で時間的な負担が多くなっているのではないか。そして、先ほどから話題になっている事後状況の確認や復帰率の確認に関しても、ここまで延べ参加児童生徒数が多くなれば、なかなか難しいのではないか。また、参加した児童生徒の満足度の点については、アンケート等で測ることも当然できるが、リピーターが多くいるという点から考えると、それだけ満足している参加者が多いのではないかと考えられる。

話は変わるが、はつらつ体験塾開催前に参加者について情報収集をしているとあったが、その中で特別な配慮を要する参加者の情報は正しく聞き取ることができているのか教えてほしい。当日実際に会ってみて、事前の情報と実情が違う場合もあるのか。そうすると、実際の運営時に困ることがあるのではないか。

星野： 参加者の増加については、ありがたい部分ではあるが、私たち所員も限られているので、当日は学生ボランティアに協力を得ながら対応している。しかし、キャンプ前の情報収集にはどうしても時間がかかってしまっている。参加人数については、今後も様子も見ながら、適正人数について吟味していきたい。

参加者の満足度についてであるが、リピーターの参加者かなり多くいるのが現状である。その子供にとって、はつらつ体験塾が心の支えになっているのであれば、こういう点を満足度として考えていってもよいように感じた。

事前情報収集については、私たち所員も実際参加者に会ってみて、事前情報と違うという部分は多々ある。ただし、事前の情報よりも悪い状況であることはほとんどない。もしかしたら、保護者や担任の先生方としては、心配になって子供の状況を細かく話してもらっているのかもしれない。しかし、実際に参加した子供は、はつらつ体験塾に参加したいと意欲的な子供が多く、とてもやる気があり、元気な子供が多い。そのような良い部分をたくさん見せてくれてい

るのではないかと考えている。

伊藤： 学校から聞き取った情報については学生ボランティアにも伝えて、効果的に対応していくように進めている。参加者が増えたことで、以前は学生ボランティアと参加者が一対一で向き合っていたが、学生ボランティア一人で二～三人の参加者を見なくてはいけないなり、学生ボランティアの苦労も多くなっている。その点については配慮が必要であると感じている。とはいえ、学生ボランティアには謝金が出ているので、参加者が増えたからと言って学生ボランティアを増やすことは難しいのが現状である。今回オブザーバーで参加している妙高青少年自然の家の相澤さんが、以前はつらつ体験塾の学生ボランティアをされていた。その時の様子などを教えていただけるとありがたい。

相澤： 初対面の子供との対応だったため、関係性の築き方に難しさがあった。そして、配慮が必要な子供も多かったのも、その点を1日2日で見極めることが学生として難しかった。いろいろな方々のサポートもあり、実際子供と関わることの楽しさもあり、勉強になる点が多々あった。

5 協 議 (進行：伊藤所長)

(協議事項について、以下のように説明)

令和7年度のはつらつ体験塾について

○変更点

・新たな目的の提案

不登校・不登校傾向のある児童生徒の生きる力を育み、将来の生活における自立を目指す。

IKR 評定用紙(簡易版)を基にした評価指標の策定。

・第2回日帰りミニキャンプの開催地について

隔年で会場を変更

○来年度の日程

・大きく3つのシリーズに分けて実施。

令和7年度のはつらつ体験塾推進委員会について

○今年度と同様に ZOOM での開催を予定。

庭田： はつらつ体験塾をより効果的な体験活動にするために、主催者側として心がけていることがあったら教えていただきたい。

保坂： 来年度もはつらつ体験塾を進めていくにあたって大事にしたいのは、参加した子供は、すごく生き生きとしている。その姿を他の場所でも見せて欲しい、身につけた力を違う場でも発揮して欲しいという点である。そのための働きかけを模索していく。

庭田： 子供の感想を見ると、「関わりをもててよかった。」などがあった。その「他者との関わり」を他の場面で生かせることが非常に大事だと思う。かといって、体験できたからすぐできる、他の場所でできるかということ、そうとも限らない。だからこそ、その積み重ねというのが非常に大事になってくると思う。来年度も様々な体験活動を考えているようであるので、不登校の子たちにとってみると、貴重な場になると思う。

伊藤： はつらつ体験塾は、ミニキャンプ、フレンドリーキャンプ、チャレンジキャンプでワンセツ

トになっている。私たちとしては、できるだけ3つのキャンプに続けて参加してもらえるように、魅力的な活動を企画していく。それと同時に、子供の実態を考えれば、スモールステップになるように、3つのキャンプをストーリー性のある事業にしていかなければいけないと考えている。そのために普段から内容や場所等を吟味していく。

若狭： 先ほどの話の中にも、保護者と学生ボランティアが情報交換する場が非常に効果的であり、保護者から評判がよかった、という報告があった。不登校の保護者が普段見られない子供の姿を間接的に知ることは、保護者にとっても子供にとっても元気づけられることであると思う。私は、「保護者が元気になるれば子供が元気になる」と、思うところがとても多い。そう考えると、学生ボランティアは、はつらつ体験塾の運営面でお願いしている学生ではあるが、子供と関わっている学生こそが、その場その場で子供にしっかりと評価し、ほめて欲しいという気持ちがある。私たち教員だと、「この場は褒めたほうがいい」といったことが、ある程度経験からわかる。しかし、そういう経験の少ない学生ボランティアには、事前に集まっていたときに、具体的に評価の話や、こういう様子が見られたらほめてほしい、などの打ち合わせが非常に大事になってくると考える。ぜひ、子供にフィードバックしてほしいし、保護者たちにも子供の良さをいっぱい学生から語って欲しいという気持ちである。

保坂： 本当にその通りである。学生ボランティアへの研修では、時間を取って伝えるようにしている。ただ、日帰りミニキャンプ時はスケジュールの関係で、学生ボランティアへの研修時間があまりとれず、私たちが意図しているところを伝えきれずにいた。そのため、学生ボランティアが積極的に褒めている姿が見られないときもあった。今後は、学生ボランティアに対して、はつらつ体験塾の目的や子供の褒め方等について、私たちの意図をしっかりと伝えられるようにしていく。

玉木： 先ほど若狭委員長からもお話があったが、私もやはりその評価指標が少し心配であると感じた。IKR 調査自体は、妙高青少年自然の家長期キャンプでも使用している。こちらは、数値に起こして変容を見取れるという良さもある。しかし、はつらつ体験塾の対象者は不登校傾向の子供であることを考えると、回数を追って変容を見ていけるのかどうか不安が残る。さらに、はつらつ体験塾では、「数値に起こして変容を見取る」ことが目的としてよいのか、と思うところもある。先ほど学生ボランティアが子供の一番近いところにいるとお話もあった。それであれば、何か変容を見たいのであれば、学生ボランティアが見た子供の姿が、「どういう声掛けしたときに、どういう変化があったか」を細かく見ていくのがいいのではないか。この場合、日帰りミニキャンプ、フレンドリーキャンプ、チャレンジキャンプの3回のキャンプの内容を、子供の行動変容を目指したものに整理する必要があるかと思う。それぞれの地域や施設の特色を生かしつつ、「こういうことをしたら、子供がこのように変容し、それが次のキャンプで繋がる」というような、だんだんと積み上げていくような構成にしていけると良いと感じた。

保坂： 評価指標について、そして学生ボランティアと関わる中で見ていくという点は私たちになかった視点であったので、参考にさせていただきたい。今回の提案は、事業の積み重ねという点から見たときに、参加者が毎回同じではない。そのため、何かしらの形で子供に、「こんなことができたね」とっていうふうに戻していくためには何がいいのか、と考えてのものである。今ほどご提案いただいた、学生ボランティアとの関わりの中での返していくやり方は、とてもい

い方法であると感じたので、参考にさせていただく。

内川： 私は、はつらつ体験塾の大きな魅力が3つあると思っている。「自然との触れ合い」「様々な体験活動」「年齢の壁を越えた交流、異年齢交流」である。本当に、魅力的な体験活動を提供しているので、これら、はつらつ体験塾の特色をもっと伝えていくとよい。児童生徒向けのはつらつ体験塾のご案内には、これらの魅力が十分入っているのかもしれないので、推進計画や大人向けの案内には、文言が入っているとよい。イメージとしては、令和5年度までの推進計画の「期待する効果」に記載されていた「いくつかのキーワード」や「文言」が入っていると、とても分かりやすいように感じた。

保坂： これまでの推進計画を見直していく中で、その目的の中に手段が入っているのではないかと考えた。そこで、事務局としては、はつらつ体験塾としての素晴らしい体験活動を通して子供にどんな力を育てたいかと考えた時に、「生きる力」につながるのではないかと考えた。もちろん、その一言ですべての魅力を網羅しているとは思えないが、そのような経緯で目的を提案させていただいた。ただ、「期待する効果」としてはつらつ体験塾の魅力の部分が入っている方がわかりやすいというご指摘をいただいたので、この点については、私たちが持ち帰って、推進計画がより分かりやすくなるように再考したい。

藤塚： 質問を3点お願いしたい。一点目は、第2回の会場を隔年で変更する件について、令和6年度の課題も参加者の居住地域の偏りとあったが、場所を変えていくことで、はつらつ体験塾の周知が広く図られるという考えなのか。二点目は、はつらつ体験塾の周知はどのように行われていたのか。来年度、その周知の仕方の改善はあるのか。三点目は、妙高青少年自然の家の方にお伺いしたいのだが、妙高でも、はつらつ体験塾のような活動を行っているのか。

保坂： 第2回の開催については、各年の開催地を変えていくのは、周知の面もある。それ以外にも、実際に妙高開催のはつらつ体験塾の問合せで「参加を考えているけど、少し遠い」という話をいただいた。そのようなご意見が多かったこともあり、次年度は中越地域に会場を変更することで、実際に参加してもらい、周知も図りたいと考えた。広報関係については、ホームページのほか、実際に適応指導教室へ出向いて直接広報をしてきた。来年度の広報も昨年度同様に実施する予定である。

玉木： 妙高青少年自然の家が主催して、不登校傾向のあるお子さんたち向けのキャンプというものは、今年度は特にやっていない。外部の団体や指導者の方たちの方で、そのような趣旨で開催し、妙高で実施しているものは何例かある。趣旨が少し異なるが、妙高青少年自然の家が主催でやったことがあるものとして、オフラインキャンプがある。ゲーム依存だったり、メディア依存だったり、生活面で自立できていないような青少年の方々を対象にしたキャンプである。実際にキャンプに参加してことで、少し生活が改善されたという効果があった、という話は聞いている。

宇佐美： 3つ話をさせていただく。1つ目は、第2回の会場を中越地域にする件である。私も昨年度までは小学校の教頭の立場として、不登校傾向の子供やその保護者に対してはつらつ体験塾を進めていた。しかし、どうしても「会場が遠いので…」との声があった。そのような点からも、場所を変えていくことは効果があることだと思う。2つ目は、変容した姿を他の場面で発揮し

てほしいという点である。私も数年前まで妙高青少年自然の家に勤めていた。その時、はつらつ体験塾に参加した子供が、妙高青少年自然の家で8月に行っている長期キャンプに参加してきたことがあった。これは、その子供がはつらつ体験塾に参加したことで自信をもち、他でも活動できるのではないかと、という気持ちに繋がった表れではないか。その子供は、実際2週間弱のキャンプに参加して、最後まで活動できていた。これまで不登校だった子供は、もしかしたら、学校の中では自分の変わった姿を見せることが難しいのかもしれない。でも、それが学校ではない違うところ、例えば、はつらつ体験塾やその他の施設では見ることができるとも思える。そしてそれが自信に繋がるのではないかと思う。そのような視点からも、はつらつ体験塾を他の施設との連携を進めていってもいいのではないかと思う。3つ目は、新潟県少年自然の家に次年度より指定管理制度が導入される件である。導入されるが、県の職員も一部は残るし、はつらつ体験塾についても存続していく。しかし、どうしてもこれまでの体制から変わるところが出てくる。もちろん、生涯学習推進課や生徒指導課としては、これまで通り支援・サポートを続けていく。この点については、皆様にご承知いただきたい。

保坂： 本当に良い事例を聞かせていただいて感謝する。先ほどから「はつらつ体験塾で身につけた力やその姿を他のところ見せてほしい」との話をしてきたが、その事例を聞くことができ、本当に良かったと感じている。はつらつ体験塾が子供にとって学びの場となり、さらにそこから次の場面を自ら開拓していく、という好事例を聞いたのは本当によかった。これからも、このような子供に力を身につけさせていけるような働きかけを継続していきたい。

6 閉会の挨拶（庭田副委員長）

本日は、不登校児童生徒の体験活動推進事業であるはつらつ体験塾の推進委員会において、令和5年度6年度の実施状況の報告と、令和7年度の推進計画について協議をいただいた。本日の報告でもあったように、令和4年度と5年度を比較しましても、参加者数がかなり増えている。令和6年度も令和5年度を上回るような状況かと思う。今年度ももうすぐ公表されるかと思うが、文部科学省が毎年行っている「児童生徒の問題行動不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」では、令和4年度全国では、小中学校合わせて約30万人と、前年度よりも約22%も不登校児童生徒が増加している。新潟県でも、4700人を超え、全国と同じような傾向だと言える。このような状況からも、はつらつ体験塾の果たす役割、意義は大きなものがあると言える。そして、様々な体験活動が紹介されたが、これらの活動を通じ、その生徒児童生徒の声として、「他の人と話ができて楽しかった」「友達をつくることができうれしかった」「またテントで寝てみたい」など、様々な声が挙げられていた。分析については様々な意見があり、難しさがあった。しかし、まとめとして、子供は人と人との関わりを求めている。子供が多くいて、関わることによって、その場が安心できる場になり、自信を深めた。そのような結果にであったと、報告を聞いて感じた。私が以前聞いた話で、参加した中学生が高校生になって、またはつらつ体験塾に参加したいという申し出があったというエピソードを聞いたことがあった。ボランティアという形で参加したと聞いた。この事業によって、充実感を得た子供が、現在いろいろ模索している子供に関わり、そのよさを伝えたいというすばらしい話だなと感じた。令和7年度の推進計画も協議確認がされました。不登校児童生徒が、何かきっかけやヒントを掴む場である、はつらつ体験塾を我々がそれぞれの立場からもっと理解を深め、広く周知して推進していく必要があるかと思う。この点について皆様にご協力をお願いして、閉会の挨拶としたい。

Ⅲ 令和6年度はつらつ体験塾推進計画

令和6年度不登校児童生徒体験活動推進事業
「はつらつ体験塾」推進計画

新潟県少年自然の家

1 目的

不登校及び不登校傾向の児童生徒を対象に、青少年教育施設等を活用して、自然体験・共同生活体験・宿泊体験などの様々な体験活動を行う。その中で、社会性や集団への適応性を高めたり、円滑な人間関係づくりの経験をさせたりするとともに、自信の回復・高揚を図り、自立への支援を行う。

2 期待する効果

- (1) 様々な体験活動の機会や人との出会い・関わりを通して、対象児童生徒の行動範囲と視野を広げる。
- (2) 宿泊体験、共同生活体験を通して、人との関わり方を学び、ふれ合いを体験することで、対人関係を深める。
- (3) 様々な体験活動に挑戦する中で、感動、成功感や達成感を味わうことによって、自信の回復・高揚を図るとともに、新たな活動への参加意欲を高め、学校復帰への足がかりとする。

3 参加対象、定員

- (1) 不登校・不登校傾向の児童生徒
- (2) 小学校1年生から中学校3年生
- (3) 定員30名程度（初参加者優先・抽選決定）

※児童生徒の状況により保護者の付添・見学について相談に応じる。
学校・適応指導教室等関係者の参加も同様。

4 参加費

食事代、宿泊費、活動に使った物品の料金を徴収

5 事業の内容

(1) 日帰りミニキャンプ

日帰りで気軽に参加できる内容とし、多くの児童生徒から本事業に興味や関心をもってもらおう。

(2) フレンドリーキャンプ

活動を通して、主に自然体験や人とかかわることの楽しさ、協力することの良さを味わわせる。

(3) チャレンジキャンプ

活動を通して、主に自分たちの力でやり遂げたことへの成就感・達成感を味わわせる。

(4) 保護者との連携・対応

日帰りミニキャンプ … 児童生徒と一緒に参加・見学してもらうことで、活動の様子や雰囲気を知っていただく。

保護者向けオリエンテーションを行い、事業について説明したり、質問に答えたりする。

フレンドリーキャンプ… 保護者同士による交流会を実施し、情報交換の場を提供する。

チャレンジキャンプ … S S Wに参加していただき、保護者座談会を実施する。

6 令和6年度のキャンプの日程（予定）

	キャンプ	期日	会場	主な活動
第1回	日帰りミニ キャンプ	5月11日（土）	新潟県 少年自然の家	野外ゲーム ピザづくり
	フレンドリー キャンプ	6月15日（土） ～16日（日）		キャンプファイア お菓子づくり カヌー・海遊び
	チャレンジ キャンプ	7月13日（土） ～14日（日）		テント泊 グラウンドゴルフ ナイトハイク 野外炊さん
第2回	日帰りミニ キャンプ in 五頭	8月25日（日）	五頭連峰 少年自然の家	沢登り 野外ゲーム
	日帰りミニ キャンプ in 妙高	9月22日（日）	国立妙高青少年 自然の家	そば打ち オリエンテーリング
第3回	日帰りミニ キャンプ	11月9日（土）	新潟県 少年自然の家	餅つき 竹とんぼづくり
	フレンドリー キャンプ	12月14日（土） ～15日（日）		正月飾りづくり キャンドルナイト 電車でGO
	チャレンジ キャンプ	1月18日（土） ～19日（日）		食材の買い出し どんど焼き お楽しみ会（昼食会）

7 運営組織

(1) 主催 新潟県教育委員会 新潟県少年自然の家

(2) 推進委員会 (年1回開催)

① 構成

推進委員	学識経験者、学校関係者、適応指導教室関係者、自然の家所長
オブザーバー	県教育庁生徒指導課担当者、 県教育庁生涯学習推進課担当者、関係施設職員
事務局	自然の家担当所員 庶務課

② 内容 事業の全体計画や事業効果等についての協議

(3) 運営スタッフ

① 総括

(ア) 構成 指導課長及び県少年自然の家担当社会教育主事

(イ) 内容 ○活動の企画立案、全体調整
○各機関との調整
○推進委員会の運営・準備
○記録の作成
○広報

② 指導スタッフ

(ア) 構成 県少年自然の家指導課所員

(イ) 内容 ○各キャンプの具体的な計画作成
○参加児童生徒、学生ボランティアの健康管理
○各キャンプの活動の具体的な進行、準備、後始末
○参加児童生徒、学生ボランティアの指導
○けが等への対応

③ 学生ボランティア

(ア) 構成 大学・専門学校等に籍を置くボランティア、各キャンプ10名程度

(イ) 内容 ○指導スタッフと協力しながら、活動の具体的な展開
○児童生徒と活動・生活を共にしながらの支援・指導

④ 外部指導者

(ア) 構成 資格や特技等をもっている方やグループ

(イ) 内容 ○各自の得意な場面で児童生徒に指導助言
○事業・活動のねらいに沿った活動

⑤ 看護師

(ア) 構成 看護師または養護教諭の資格をもっている方

(イ) 内容 参加者・学生ボランティアの救護等

8 運営・指導の構え

- (1) 児童生徒の内面、気持ちを理解しながら活動を共にする。
- (2) 人とのかかわり、自主・自立、成就・達成感を意図した活動を工夫して設定する。
- (3) ゆとりのある活動を構成し展開する。
- (4) 公共マナーを身に付けたり、社会性を高めたりするよう働きかける。
- (5) スタッフ、学校や適応指導教室等の関係機関、保護者との連携を密にしながら、活動を進める。

IV 実施計画、はつらつ通信

第1回

はつらつ体験塾

期日

日帰りミニキャンプ : 5月11日(土)

フレンドリーキャンプ : 6月15日(土)

~16日(日)

チャレンジキャンプ : 7月13日(土)

~14日(日)

会場

新潟県少年自然の家

令和6年度 第1回 はつらつ体験塾実施計画

1 ねらい

不登校及び不登校傾向の児童生徒を対象に、青少年教育施設等を活用して、自然体験・共同生活体験などの様々な体験活動を行う。その中で、社会性や集団への適応性を高めたり、円滑な人間関係づくりの経験をさせたりするとともに、自信の回復・高揚を図り、自立への支援を行う。

2 参加対象・定員

不登校・不登校傾向の児童生徒及びその保護者、適応指導教室指導員、学校関係者

- ・小学校1年生から中学校3年生
- ・定員は30名程度とする（初参加者優先・抽選決定）

※初参加の場合など、児童生徒の状況により保護者の付添・見学については相談に応じる。

3 活動内容・実施日・会場・参加経費

(1) 日帰りミニキャンプ

① 実施日 令和6年5月11日（土）

② 活動内容

9:30	9:45	9:55	10:20	12:00	13:00	14:30	14:45	15:00
受付	出合い	レクリエーション	ピザ作り	昼食 休憩	オリエン テーリング 荒天：館内チャレンジ	振り返り	別れ	

(2) フレンドリーキャンプ (1泊2日)

① 実施日 令和6年6月15日(土)～16日(日)

② 活動内容

10:40	13:00	13:30	13:40	14:10	14:40	17:30	18:30	19:30	21:30
学ボラ 研修会 ↓ 昼食 休憩	受付	出 会 い	レ ク	参加者オリエンテーション ベッドメイキング	お菓子 づくり	夕食 休憩	ボンファイア 荒天: キャンドル ファイア	風呂 自由	就寝
保護者プログラム 交流会									

6:00	7:30	9:00	12:20	13:00	13:15	13:30	14:00
起床	朝食	カヌー・海遊び 荒天:インドアストレッチ	昼食	振り返り 100号室掃除	別れ	スタッフ 反省会	

(3) チャレンジキャンプ (1泊2日)

① 実施日 令和6年7月13日(土)～14日(日)

② 活動内容

10:40	13:00	13:30	13:40	14:10	14:30	15:30	17:30	18:30	19:30	21:30
学ボラ 研修会 ↓ 昼食 休憩	受付	出 会 い	レ ク	参加者オリエンテーション	テント 設営	グラウンド ゴルフ	夕食 休憩	ナイト ハイク 荒天: 館内遊び	風呂 自由	就寝
保護者プログラム 座談会										

6:00	6:30	6:45	7:30	8:00	11:30	13:00	13:15	13:30	14:00
起床	朝の つどい	テント 片付け	朝食 等	野外 炊さん	昼食 片付け	振り返り 100号室 掃除	別れ	スタッフ 反省会	

はつらつ体験塾 通信



第1回はつらつ体験塾日帰りミニキャンプ号 令和6年5月23日
新潟県少年自然の家

新しい出会いと体験がいっぱい！

5月11日（土）に「第1回はつらつ体験塾 日帰りミニキャンプ」を実施しました。今年度最初の「はつらつ体験塾」では、初めて参加するお子さんが増えました。保護者と学生ボランティアさんも含めて総勢28人。「新しい出会いと体験」を存分に楽しみました♪

【日程】

9:30	9:45	9:55	10:20	12:00	13:00	14:45
受付	出会いのつどい	レクリエーション	米粉ピザづくり	昼食	フォトオリエンテーリング	別れのつどい



【出会いのレクリエーション】

- ① 「セブンイレブンじゃんけん」
2人で7、3人で11ぴったりに指の数を合わせます。
- ② 米粉ピザづくりにちなんだ「ピザじゃんけん」
グーはトマト、チョキはチーズ、パーは生地。
3人で3種類そろったら「できあがり！」



【米粉ピザづくり】

- ① 生地をよくこねてモチモチにしてから、薄く伸ばします。
- ② トッピングの具材を食べやすい大きさに切り、生地に乘せて焼きます。
- ③ フライパンで極弱火で焼いて完成。大人でもお腹いっぱいになるほどのボリュームで、みんなおいしそうに食べていました。



【午後の活動「フォトオリエンテーリング」】

MAP と写真を頼りに班ごとに自然の家の周りを探検しながら、様々な場所に隠されたキーワードを探していきます。「こっちに行こうよ！」と、班の仲間に自分の意見を伝えたり「そうだね～。それがいいかも。」と、相手の考えを聞いたりしながら楽しんで参加する姿が見られました。

1日の活動をとおして、笑顔いっぱい元気いっぱいになった子どもたちからは「とっても楽しかった～」「次も参加したい！」という声がたくさん聞こえてきました。ぜひ次回も自然の家に来てくださいね♪

はつらつ体験塾担当：星野・保坂・須田

はつらつ体験塾 通信



令和6年度 第1回フレンドリーキャンプ号 令和6年6月28日
新潟県少年自然の家

暑さに負けず、みんなで楽しみました

6月15日(土)・16日(日)に、胎内市の新潟県少年自然の家を会場にして、第1回はつらつ体験塾フレンドリーキャンプが行われました。小・中学生31人、学生ボランティア10人が参加したキャンプの様子をお知らせします。

6月15日(土)

1300	1330	1340	14:10	1500	17:00	17:30	18:30	19:50	21:30
受付	出合いのつどい	レクリエーション	ベッドメイキング	お菓子づくり	キャンプファイア準備	夕食休憩	キャンプファイア	お風呂自由	就寝

出合いのレクリエーションでは、最初に「キャッチゲーム」を行いました。全員で輪になって、左手は掌を広げて上に向け、右手は人差し指を立てて下に向けて隣の人の広げた掌の上に置きます。『キャッチ』と合図をしたら、右手は上に逃げて、左手は隣の人の右人差し指を捕まえます。合図の言葉を『キャロット』『キャット』など違う言葉が入って盛り上がりました。次に、「ネームプレート交換」を行いました。最初に活動班全員で、自分のキャンピングネームと自分の好きな食べ物を紹介しました。その後、他の班の人と同じように自己紹介をして、終わったらその人とネームプレートを交換します。次の人とは、交換した前の人のネームプレートをもとに、前の人の自己紹介をします。3人か4人と交換したら、最後に自分が持っているネームプレートの人を大きな声で呼んで、ネームプレートを返します。最後は、大縄くぐりをやりました。活動班ごとに大縄を飛ばすことなくぐって通り抜けます。最初は1人でチャレンジします。その後、2人、3人、最終的には活動班全員でチャレンジします。くぐりぬけるタイミングを全員で考え、スリルを全員で体験することで、お互いの距離を近づけることができました。



ベッドメイキングの後は、みんなが楽しみにしていたお菓子づくりをしました。みんなでバームクーヘンづくりをしました。

バームクーヘンづくりの大まかな流れを説明してもらい、活動班ごとに作業をはじめました。最初は、材料を順番撮りに入れながら混ぜて、生地を作りました。粘りが出るまで一生懸命頑張りました。生地をフライパンに入れて、焼きあがったら巻いていくことを繰り返し、何層かできたらバームクーヘンが乾燥しないようにラップを巻いておきます。少しだけ焦がしてしまった班もありましたが、学生ボランティアと協力しながら、楽しそうにバームクーヘンづくりを進めることができました。また、班全員で協力してきれいに片付けもできました。完成したのが夕食前だったので、そこでは味見程度にして、残りは夕食後や就寝前までに食べるようにしました。



夕食後に行ったキャンプファイアでは、各活動班全員で誓いの言葉を大きな声で言った後、班の代表として選ばれた火の守が点火をしました。点火後は、大きな火となり、しばらく全員で燃え上がる炎を見つめました。次に『以心伝心ゲーム』で盛り上がり、出題されるクイズに全部の班が正解しました。最後に、燃え上がる炎を囲んで、『マイムマイム』を全員で踊って「キャンプファイア」を終了しました。班の結束がますます強くなってきました。



6月16日(日)

6:00	7:30	9:00	12:20	13:00	13:15	13:30
起床	朝食	カヌー・海遊び	昼食	ふり返り	別れのつどい	解散

2日目には、カヌー体験と海遊びに分かれて活動しました。

カヌー体験は、服装や装備品の安全確認をした後、陸上でのパドル操作を確認してからスタートしました。川に出たからは、広い場所でカヌーの基本的な漕ぎ方を練習し、慣れてきたら、橋を越えて奥まで進みました。初めてカヌー体験する参加者も多くいましたが、すぐにコツを身に付けて上手に漕ぐことができるようになりました。多くの参加者から「またカヌーに乗りたい」「もっとカヌーをやりたい」という声が聞こえてきました。

海遊びは、荒井浜で砂浜に落ちている珍しいものを探しながらゆっくり歩きました。じっくりと探した結果、貝殻や珍しい色や形の石、シーグラス、コウイカの骨などを見つけたり、生きているカニを捕まえたりしました。その後、上に積み上げやすい平らな石を見つけて、積み上げる競争しました。シンプルなゲームですが、できる限り積み上げやすい石をたくさん集めることと集中力が重要です。黙々と積み上げていきました。同時進行で、所員が持参した釣り竿で、魚釣り体験も行いました。エサを付けた仕掛けを所員が投げた後、参加者がゆっくりリールを巻いて魚のアタリを待ちます。じっくりとリールを巻いているとブルブルという反応が竿を通じて手に伝わってきます。この瞬間がたまりません。何回かあたりを楽しみながら、今度は急いでリールを巻きます。釣れて上がったのは、キスでした。小さいですが、食欲旺盛でゆっくりリールを巻くとエサをしっかりと食べてくれます。



天候に恵まれて、暑い二日間でしたが、その暑さに負けず、子どもたちの熱気あふれる楽しいキャンプとなりました。学生ボランティアの皆さん、保護者の皆様のご協力があり、今回ははつらつ体験塾も大成功を収めることができました。ありがとうございました。

はつらつ体験塾担当：星野貴之・須田洋介・保坂吉彦

はつらつ体験塾 通信



令和6年度 第1回チャレンジキャンプ号 令和6年7月22日
新潟県少年自然の家

梅雨にも負けず、充実の2日間でした



7月13日(土)・14日(日)に、胎内市の新潟県少年自然の家を会場にして、第1回はつらつ体験塾チャレンジキャンプが行われました。「チャレンジキャンプ」の名前どおり、チャレンジにあふれる活動内容になりました。小・中学生25人、学生ボランティア8人、看護師1人が参加したキャンプの様子をお知らせします。

7月13日(土)

13:00	13:30	13:40	14:10	14:30	15:30	17:30	18:30	19:30	21:30
受付	出会の つどい	レクリエ ーション	オリエンテ ーション	テント 設営	グラウンド ゴルフ	夕食	ナイト ハイク	お風呂 自由	就寝 (テント)

出会のレクリエーションでは、ネームプレート交換を行いました。前回のフレンドリーキャンプの出会のレクリエーションでも行いましたが、今回は、前回よりもコミュニケーションの内容や量を増やしました。同じ活動班以外の3人と交換します。最後に、今自分が持っているネームプレートの人のキャンピングネームを呼んで相手を探します。積極的に他の人と関わらなければ相手にネームプレートを返すことができません。参加者の多くが、大きな声でキャンピングネームを呼んで返すことに成功していました。終わるころには、参加者同士の仲間意識が高まったように感じました。



次に、みんなが宿泊するテントの設営を行いました。まつかさの家付近の平らな場所を探して、テントを設営しました。初めてテントを張る子もいましたが、多くの参加者が積極的にテント設営にチャレンジしていました。学生ボランティアさんの協力もあり、無事に設営することができました。テントの設営が終わると早速中に入っていました。「できたぞー。」「今から寝るのが楽しみ。」などの楽しそうな声があちらこちらから聞こえてきました。みんな協力して、テントを設営することができました。



テント設営が終わったら、グラウンドゴルフを行いました。胎内市グラウンドゴルフ連盟の方にアドバイスをいただきながら、創意工夫したオリジナルコースを活動班ごとに一つ作りました。木の根っこなどを利用した複雑なコースもあり、胎内市グラウンドゴルフ連盟の方からも「これは、難しい良いコースだなあ」という声がありました。残りの3ホールは、しばふ広場にコースを設定

して、活動班ごとにプレーしました。初めてのチャレンジだった参加者がほとんどでしたが、ホールインワンが出るなど、活動班や胎内市グラウンドゴルフ連盟の方とコミュニケーションを取りながら楽しくプレーができました。



夕食の後は、いつもオリエンテーリングで使用しているコースを利用して、ナイトハイクを行いました。コースは三つあります。引いたくじに書いてある指令のオリエンテーリングポストに活動班全員で行きます。そこに次の目的地が書かれています。三つのポストを回ったら自然の家に戻ってきます。途中のポストにあったお札をもってゴールした人には、クリアの証としてご褒美のアメが配られました。最初は怖がっていた参加者も、活動班の仲間と声を掛け合って、全員が無事にゴールしました。



7月14日(日)

6:00	6:30	6:45	7:30	8:00	8:50	11:30	12:50	13:05
起床	朝の つどい	テント 片付け①	朝食	テント 片付け②	野外炊さん	昼食 片付け	ふり回り	別れの つどい

2日目には、野外炊さんをしました。今回はカレーライスを作りました。

活動班を調理係とかま場係に分けました。調理係は、鍋や調理道具を準備するところから始めて、お米を研いだり、野菜を切ったりしました。カレー鍋、炊飯用の鍋の準備ができれば、少年自然の家恒例の「クレンザーパック」をします。かま場係は、松葉や薪を持ってきて、調理係が仕上げた鍋を火にかけられるように準備します。どの活動班もこれまで以上にコミュニケーションを取りながら、短時間でカレーライスを作ることができました。おいしくカレーライスを食べた後の片付けについても、手際よくきれいにできました。



悪天候が懸念された週末でしたが、無事にすべての活動を行うことができました。そして何より、看護師さんや学生ボランティアの皆さん、保護者の皆様のご協力があり、今回のはつらつ体験塾も大成功を収めることができました。心から感謝いたします。ありがとうございました。

はつらつ体験塾担当：星野貴之・保坂吉彦・須田洋介

第2回 はつらつ体験塾

期日

日帰りミニキャンプ in 五頭 : 8月25日(日)
日帰りミニキャンプ in 妙高 : 9月22日(日)

会場

五頭連峰少年自然の家 (五頭)
国立妙高青少年自然の家 (妙高)

令和5年度 第2回 はつらつ体験塾実施計画

1 ねらい

不登校及び不登校傾向の児童生徒を対象に、青少年教育施設等を活用して様々な体験活動を行う。その中で、社会性や集団への適応性を高めたり、円滑な人間関係づくりの経験をさせたりするとともに、自信の回復・高揚を図り、自立への支援を行う。

2 対象

○不登校・不登校傾向の児童生徒及びその保護者、適応指導教室指導員、学校関係者

- ・小学校1年生から中学校3年生
- ・定員は30名程度とする（初参加者優先・抽選決定）

※初参加の場合など、児童生徒の状況により保護者の付添・見学については相談に応じる。

3 内容

(1) 日帰りミニキャンプ in 五頭

① 実施日 令和6年8月25日（日）

② 活動内容

9:00	9:45	10:00	10:30	12:00	13:00	15:30	15:45
受付	出会いのつどい	出会いのレクリエーション	屋外ゲーム 荒天： 屋内ゲーム	昼食 休憩	沢登り 荒天： 勾玉づくり	別れのつどい	

③ 会場 五頭連峰少年自然の家

〒959-1924 新潟県阿賀野市畑江23番地

TEL 0250-62-0120 FAX 0250-62-1670

(2) 日帰りミニキャンプ in 妙高

① 実施日 令和6年9月22日(日)

② 活動内容

9:00	9:15	9:30	12:30	13:30	15:00	15:15
受付	出会いの つどい	そば打ち体験 (昼食・片付け)	休憩	オリエンテーリング 荒天：勾玉づくり	別れの つどい	

③ 会場 国立妙高青少年自然の家
〒949-2235 新潟県妙高市大字関山 6323-2
TEL 0255-82-4321 FAX 0255-82-4325

はつらつ体験塾 通信



第2回はつらつ体験塾日帰りミニキャンプin五頭 号 令和6年9月15日
新潟県少年自然の家

楽しい活動が盛りだくさんの1日でした！

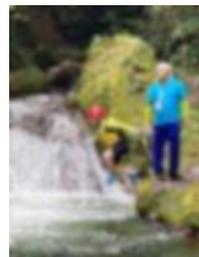
8月25日(日)に実施した「第2回はつらつ体験塾 日帰りミニキャンプin五頭」の様子をお知らせします。五頭連峰少年自然の家を会場に、五頭ならではの充実した自然体験を堪能しました！

【日程】

930	945	1000	1330	1430	1530
受付	出会いのつどい	沢登り	昼食	どんどんクリア五頭の陣	別れのつどい

計画では、出会いのつどいの後にレクリエーションを行う予定でした。しかし、この日は午後から徐々に天候が悪くなる予報だったため、午後に行く予定だった沢登りを午前に行いました。

川の中に入ると、「冷たい」「気持ちいい」などの声がたくさん聞こえてきました。はじめは歩きにくい川底に苦戦していましたが、次第に慣れてきて、自分からどんどんと進んでいく、たくましい姿が見られました。川の強い流れや、水深2m以上の深場にも負けずがんばった子どもたち。とても立派でした！ゴールの【魚止めの滝】は、ジャンピングスポットです。多くの子どもたち(おうちの人も)が川の中に飛び込み、活動を楽しんでいました。



昼食を食べた後は、「どんどんクリア五頭の陣」を行いました。屋外に用意された様々なミニ体験にチャレンジしました。これまでにやることがないような新鮮な体験ばかりで、「楽しい!」「うまくてきた!」など、楽しそうな様子が見られました。



ミニゲーム

フリスキー
遠投チャレンジ

丸太切り
のりぎり

次回は9月22日(日)、妙高での日帰りキャンプを予定しています。また、11月~1月は、再び胎内市の自然の家でのキャンプ(秋冬バージョン)も予定しています。こちらもぜひ参加していただけると嬉しいです。お待ちしております。

はつらつ体験塾担当：保坂吉彦・須田洋介・星野貴之

はつらつ体験塾 通信



第2回はつらつ体験塾日帰りミニキャンプin 妙高 号 令和6年10月吉日
新潟県少年自然の家

時には職人のように

9月22日(日)に国立妙高青少年自然の家で「はつらつ体験塾日帰りミニキャンプin 妙高」を開催しました。小中学生8人と保護者5人の計13人で楽しく活動しました。

9:00	9:15	9:30	12:30	13:00	14:30	15:00
受付	出会いのつどい	そば打ち体験・昼食	休憩	勾玉づくり	振り返り	別れのつどい

午前の活動は「そば打ち」です。名人の見事な手さばきを初めて見る、子どもたちは興味深々です。そば打ちの技法の一つである「菊練り」を見て「肉まんだー！」と一言。どんどんと伸びていく生地を見ると「ピザみたい」と発言するなどそば打ちのコツや方法を自分の経験や知識とつなぎ合わせて覚えようとする前向きな姿が多く見られました。名人のお手本を見たら、いよいよ班ごとにそば打ちがスタートです。そば粉と小麦粉を6対4の割合で指先を使って混ぜ合わせます。少しずつ水を入れながら班の全員で協力しながら笑顔で取り組む姿がとても印象的でした。次はのし板に打ち粉をふり、のし棒を使って生地を薄く伸ばしていきます。「ここが厚いよ」「がんばって0.5ミリにしよう！」などしっかりと声を掛け合いながら取り組むことができました。最後は食べやすい大きさに切ります。けがをしないように慎重に。不揃いのそばができたとしても終始笑顔で取り組むことができました。打ち立て、ゆでたてのそばは香りがよく、みんなが「おいしい！」と言いながら食べていました。とてもよい体験活動でした。



午後は「オリエンテーリング」を予定していましたが、雨天のため、勾玉づくりをしました。

そば職人から午後は勾玉職人へ変身！石に自分の作りたいデザインを描いたら、やすりを使って削っていきます。子どもたちの集中力はとても高く、石を削る作業に没頭していました。成形できたら次は磨く作業です。水につけて専用の紙で磨くとツルツル、ピカピカになります。最後は自分の好きな色と首にかけるひもをつけて完成！形も色も多様な勾玉を見て、称賛したり拍手を送り合ったりする姿がとても素敵でした。



また、参加してくださいね♪

はつらつ体験塾担当：須田洋介・星野貴之・保坂吉彦

第3回 はつらつ体験塾

期日

日帰りミニキャンプ : 11月16日(土)

フレンドリーキャンプ : 12月14日(土)

~15日(日)

チャレンジキャンプ : 1月18日(土)

~19日(日)

会場

新潟県少年自然の家

令和6年度 第3回 はつらつ体験塾実施計画

1 ねらい

不登校及び不登校傾向の児童生徒を対象に、青少年教育施設等を活用して、自然体験・共同生活体験などの様々な体験活動を行う。その中で、社会性や集団への適応性を高めたり、円滑な人間関係づくりの経験をさせたりするとともに、自信の回復・高揚を図り、自立への支援を行う。

2 参加対象・定員

不登校・不登校傾向の児童生徒及びその保護者、適応指導教室指導員、学校関係者

- ・小学校1年生から中学校3年生
- ・定員は30名程度とする（初参加者優先・抽選決定）

※初参加の場合など、児童生徒の状況により保護者の付添・見学については相談に応じる。

3 活動内容・実施日・会場・参加経費

(1) 日帰りミニキャンプ

① 実施日 令和6年11月16日（土）

② 活動内容

9:30	9:45	9:50	10:20	12:20	13:30	14:30	14:45	15:00
受付	出会い	レクリエーション	もちつき 保護者・適応指導者オリエンテーション ～11:00	昼食 休憩	竹とんぼづくり	振り返り	別れ	

(2) フレンドリーキャンプ (1泊2日)

① 実施日 令和6年12月14日(土)～15日(日)

② 活動内容

10:40	13:00	13:30	13:40	14:10	15:00	17:30	18:30	19:30	21:30
学ボラ 研修会 ↓ 昼食 休憩	受付	出会い	レク	参加者 オリテ ハットメ キング	クリスマス クッキング	夕食 休憩	キャンドル ファイア	風呂 自由	就寝
					保護者プログラム (交流会)～16:00				

6:00	7:30	8:30	9:20	13:00	13:10	13:30
起床	朝食 荷物整理	電車で ランチ 話合い	電車でランチ 9:20 バス出発→9:45 中条駅着→10:15 中条駅発→ 10:32 西新発田駅着→10:40 イオン着 ※グループごとに時間を作ってアンケート記入	別れ	スタッフ 反省会	

(3) チャレンジキャンプ (1泊2日)

① 実施日 令和7年1月18日(土)～19日(日)

② 活動内容

10:40	13:00	13:30	13:40	14:10	15:00	17:30	19:00	20:00	21:30
学ボラ 研修会 ↓ 昼食 休憩	受付	出会い	レク	参加者 オリテ ハットメ キング	フォトフレイム づくり	夕食 休憩	お楽しみ 会の準備	風呂 自由 時間	就寝
					保護者プログラム (座談会)～16:00				

6:00	7:10	8:30	9:30	11:30	13:00	13:15	13:30	14:00
起床	朝食	お楽しみ会 ビンゴ プチレク 自由遊び等	カレー うどん作り (食堂)	昼食 片付け 自由時間	振り返り	別れ	スタッフ 反省会	

はつらつ体験塾 通信



第3回はつらつ体験塾日帰りミニキャンプ号 令和6年11月27日
新潟県少年自然の家

みんな大きな声で「よいしょっ！」

11月16日(土)に、「第3回はつらつ体験塾 日帰りミニキャンプ」を実施しました。素敵な秋晴れの下、多くの子どもが参加してくれました。初参加も多く、大変楽しいキャンプとなりました。当日の様子をお知らせします。

【日程】

9:30	9:45	9:55	10:20	12:00	13:00	14:45
受付	出会いのつどい	レクリエーション	もちつき	昼食	竹とんぼづくり	別れのつどい

出会いのレクリエーションでは、班ごとに円になって自分の名前と最近あったよいことを伝え合いました。その後、もちつきクイズを行いました。意外と知らないことが多く、班の人と相談しながら、楽しく答えを考えました。

次はいよいよ「もちつき」です。蒸しあがったもち米を臼の中に入れて、杵で目つぶしを行い、一人一人順番にもちをついていきました。杵の重さに負けないように、みんなで「よいしょっ！」と大きな掛け声を掛けながら頑張りました。すると、徐々に杵にくっついてのびるようになってきました。出来上がったおもちは、つやつやしてとてもおいしそうです。初めてもちをつく子どもが多かったのですが、一生懸命、活動することができました。



できたおもちを昼食として食べました。よくのびるおいしいおもちができていました。おかわりをする子どももいて、みんな大満足といった表情でした！

午後の活動は、「竹とんぼづくり」です。材料の竹に穴を開けたり、削ったりして、形を整えていきました。そして、よく飛ぶように竹に「ひねり」を入れました。火を扱う場面でしたが、みんなが安全に気を付けて活動することができました。出来上がった竹とんぼは、体育館で飛ばしてみました。始めはなかなかうまく飛ばすことができなかった子どもも、次第にコツをつかみ、高く、遠くに飛ばすことができていました。子供たちの成長の早さに、ただただ脱帽でした。そして、楽しそうな表情がとても素敵でした。



参加した子どもたちの中から、「次も参加したい」という声がたくさん聞かれ、その場で申込みをする子どももいました。次回もたくさん子どもたちから参加してもらい、元気に活動してほしいと思います。

はつらつ体験塾担当：保坂吉彦 須田洋介 星野貴之

はつらつ体験塾 通信



第3回はつらつ体験塾フレンドリーキャンプ号 令和6年12月21日

新潟県少年自然の家

笑顔がたくさん！楽しいクリスマス！

12月14日（土）から15日（日）にかけて、「第3回はつらつ体験塾 フレンドリーキャンプ」が開催されました。参加者たちは自然の家での宿泊に期待と不安を抱えながら、大きな荷物を抱えて、総勢34名が会場に集まりました。その様子をご報告いたします。

【1日目日程】

13:00	13:30	14:15	15:00	17:30	18:30	19:30	21:30
受付	出合いのつどい	オリエンテーション	クリスマスクッキング	夕食	キャンドルファイア	入浴	就寝

出合いのレクリエーションでは、所員、学生ボランティア、参加者が心温まる雰囲気での交流の輪を広げました。ニコニコじゃんけんスタートし、風船ポンポンゲームでは、活動班で手をつなぎながら、頭や肩を使って風船を落とさないように協力して活動しました。参加者同士が声を掛け合いながら活動することで、自然と笑顔が溢れ、お互いの距離が縮まりました。最後は、半分に切った竹の中をどんぐりを転がしながらゴールまで運んでいく「どんぐりコロコロ」です。どんぐりを落とさないようにみんなで声を掛け合いました。



クリスマスクッキングでは、スコップケーキを作りました。ケーキに入れるクッキーを砕いたり、フルーツを切ったりすることから始めました。その後、スポンジケーキをちぎりながら容器に入れて、一層目にはクッキー、二層目にはスポンジケーキ、三層目にはフルーツ、四層目にはもう一度スポンジケーキを丁寧に入れていきます。最後に、フルーツでデコレーションして、粉砂糖を振りかけて完成させました。夕食後に自分で作ったスコップケーキを食べました。デザートは別腹です。活動班のみんなが美味しく食べました。



キャンドルファイアでは、炎の揺らめきを眺めながら、自分を見つめる良い時間となりました。ビンゴ大会では、「リーチ!」「ビンゴ!」と大きな声を出して喜びました。ビンゴの景品は自由時間に遊べるおもちゃ。キャンドルファイアの厳かな雰囲気とビンゴ大会の盛り上がる雰囲気とメリハリのある活動を楽しみました。



【2日目日程】

6:30	7:00	7:30	8:30	13:00
起床	部屋点検	朝食	電車に乗ってランチ ※中条駅から乗車し、西新発田駅に向かい、その後徒歩でイオン新発田店へ移動	別れのつどい

2日目は、中条駅から電車に乗ってイオン新発田店に出かけました。寒い中でしたが切符を自分で買い、マナーよく電車を待つ姿が見られました。電車の中では、全員が静かに過ごし、他のお客様に席を譲る参加者もいました。乗車して約20分で、無事に西新発田駅に到着です。

ランチの時間になると、フードコートやレストラン街で食事をとりました。ラーメン、うどん、たこ焼き、ハンバーガー、ドリアなど、バラエティ豊かなメニューの中から各自が好きな料理を注文しました。自分が買って来たものを班の中でシェアしながら、お互いの好きなものを共有する場面も見られました。何度もアイスを注文する班もあり、デザート時間もまた楽しいひとときとなったようです。やはり、デザートは別腹のようです。班全員の食事が終わったら買い物の時間です。事前に班で話し合っていたお店で買い物を楽しみ、駄菓子や小物を手に入れながら、新たな友達との関わりを深めました。お家の人にお土産を買う参加者もいました。

この2日間を通して、子供たちは協力し合い、課題に立ち向かいながらも楽しい時間を共有し、新しい友達との出会いに心躍らせたことでしょう。そして、自分たちの成長を実感したことでしょう。次回の「チャレンジキャンプ」ではどんな新たな挑戦が待っているのか、お楽しみに!!



はつらつ体験塾担当：保坂 吉彦 星野 貴之 須田 洋介

はつらつ体験塾 通信



令和6年度 第3回チャレンジキャンプ号 令和7年2月4日
新潟県少年自然の家

たくさんのチャレンジに大成功！

1月18日(土)・19日(日)に、「第3回はつらつ体験塾 チャレンジキャンプ」を実施しました。初めての参加、初めて家族と離れての宿泊、自分の意見や班のメンバーの良いところを見つけ、伝え合うなど子どもたち一人一人が様々なことにチャレンジする姿がたくさん見られました。今年度最後のはつらつ体験塾の様子をお伝えします。

<1日目>

13:00	13:30	13:40	15:00	17:30	18:30	19:30	21:30
受付	出合いのつどい	レクリエーション	フォトフレームづくり	夕食休憩	お楽しみチャレンジの準備	お風呂自由時間	就寝

出合いのレクリエーションでは、体全体を使ってのじゃんけん、班全員で手をつないで風船を落とさないようにコーンを回るリレーなどをしました。少し緊張していた子どもたちも笑顔いっぱいになりました。



宿泊の準備を済ませて一息ついた後は、フォトフレームづくりです。フレームにどんぐりや松ぼっくり、木の枝などを安全に気を付けながらグルーガンで取り付けました。最後まで集中して粘り強く取り組む姿が素晴らしかったです！



夕食後は、翌日の「お楽しみチャレンジ」（班ごとにみんなが楽しめる遊びを考え、子どもたちで計画から進行まで行う活動）の話し合いと準備をしました。どんな遊びならみんなに楽しんでもらえるか、役割分担はどうするかなど、一生懸命考えながら、実際に動きながら進めることができました。



夕食後に自分からテーブル拭きをしてくれました。素晴らしい！



<2日目>

6:30	7:30	8:30	10:00	13:30	13:45
起床	朝食	お楽しみチャレンジ	カレーうどんづくり	別れのつどい	解散

朝食後は、いよいよ「お楽しみチャレンジ」本番です。子どもたちが考えたアクティビティは「クイズバスケット」「ドッチボールトーナメント」「とうてきおに」「モルックボウリング」「フルーツバスケット」です。参加者は小2～中3までと幅広かったのですが、みんなが笑顔になる、とても楽しい時間になりました。「1人1役」というチャレンジも見事達成です。そして、全てのグループが決められた時間内に終わることができていました。子どもたちの「チャレンジ」と「素晴らしさ」を感じる、充実した時間でした！



最後は、「カレーうどんづくり」です。「カレーができれば豚汁もシチューも作れる」「学んだことを家庭で生かす」ことをねらいに取り組みました。役割分担をして進めるのではなく、「必ず一人ずつ工程に取り組む」ことを大切にしながら進めました。包丁や皮むき器の扱いなど慣れない作業もありましたが、みんなでわいわいと、楽しく活動できました。そして、できあがったカレーうどんのおいしさにびっくり！！量が足りない人はレンジで作るご飯も自分で作って食べました。ぜひまたチャレンジしてほしいと思います。



今年度最後のはつらつ体験塾は、たくさんのチャレンジと子どもたちや学生ボランティアの笑顔あふれる、とても素敵な2日間になりました。ここでの学びを生かして、様々な場面で力を発揮して欲しいと願っています。本事業を応援くださった皆様に、心から感謝申し上げます。



はつらつ体験塾担当：保坂 吉彦・須田 洋介・星野 貴之

